

# 収納習慣および整理法から導き出す クローゼットプロトタイプの考察・提案

須原浩子

2020年3月

目次	
調査研究の目的	2
調査研究の方法と結果概要	3
クローゼット自主研究結果 ～ 2018年	4
クローゼットのタイプ分類	5
衣類収納とクローゼットの課題事例	6
衣類収納とクローゼットの上手な活用例	8
ユーザーに人気のメーカーが提案するクローゼット例	10
衣類の収納習慣「衣替え」の考察	12
アンケート調査実施概要 第1回	13
調査概要その1 第1回アンケート	14
調査結果と分析 第1回	18
概要その1 第1回アンケート結果と分析	19
アンケート調査実施概要 第2回	23
調査概要その2 第2回アンケート	24
調査結果と分析 第2回	28
概要その2 第2回アンケート結果と分析	29
アンケート調査実施概要 第3回	38
調査概要と結果その3 第3回補足のアンケート	39
クローゼットプロトタイプ提案の条件設定	41
自主研究からの条件設定	42
アンケート結果からの条件設定	43
整理収納プロへのヒアリングからの条件設定	44
クローゼットプロトタイプの提案	45
クローゼットプロトタイプの提案	46
クローゼットのプロトタイプ-1「通年派」	49
クローゼットのプロトタイプ-2「入替派」	50
クローゼットのプロトタイプ-3「一部「都度派」	51
クローゼットのプロトタイプ-応用例	52
今後の課題	53

## 調査研究の目的

「フランス人は10着しか服を持たない」という本がベストセラーになるなど、スタイリストや収納のプロによる衣類整理の書籍が多数リリースされている。それに対して、住宅満足度アンケートの公開結果を見ると、衣類収納に不満をもつ割合が高く、依然として悩まされている住み手が多いことが分かる。

その実態を知るために、一般家庭と整理収納プロの家庭を対象に、クローゼットの使い方について 2008年から家庭訪問を重ねてきた。その結果、衣類収納に悩む家庭では収納スペースが足りない、もしくは収納法が分からないといった声を耳にした。一方で、整理収納プロの場合は現状のクローゼットに合わせて、衣類整理に工夫を凝らしていることが分かった。クローゼットは各家庭の住宅事情によるハードな収納空間が前提となっており、住み手の創意工夫に依存している状況にあるため、収納方法というソフト面で収納問題を解決しているのが実情なのである。

つまり、書籍やメディアを通して収納術が伝わりつつある半面、クローゼットのデザインについての探求が二の次となっているのではないか。整理収納法が大切な生活技術であることと同じく、収納空間そのものの機能的な計画・設計も重要である。ただ単に収納する場所と量が確保されていれば問題が解決できるということではない。また、大工工事やシステム収納の設置による、これまでの慣習として造られてきたクローゼットでは住み手の要望に十分応えきれていないのではないかと考えられる。

整理収納法などソフト面でのノウハウが広まることにより住み手の意識が高まる反面、インテリアのプロによる収納空間というハードが対応できているのか？その問題意識を起点として、自主的に行ってきた先行調査結果加えて、新たにアンケート調査を実施する。その結果をもとに衣類の収納習慣と整理法を収納空間へと反映し、クローゼットプロトタイプの考察提案を行い、住まいの収納計画に資することを目的としている。

### 須原浩子

インテリアコーディネーター  
一級建築士  
整理収納アドバイザー認定講師  
収納環境プランナー認定講師  
株式会社アビタ・クエスト代表

公益社団法人インテリア産業協会

「インテリア関連調査・研究活動支援事業」助成金  
をもとに調査研究を実施してまとめた報告書

## 調査研究の方法と結果概要

クローゼットを計画するにあたり、衣類の種類と数量を知ることが手掛かりとなるが、そこにはファッションへの関心度、価値観、職業、年齢など個人的な要素が影響を与えているため案件ごとの収納提案となり、一般に当てはめやすい事例が不足している。そこで本調査研究では衣類の整理収納法のなかでも、「衣替え」と言われている日本ならではの衣類の収納習慣に着目し、その習慣タイプごとにクローゼット収納のあり方を考察することとした。併せて、衣類の整理収納方法や市販の収納用品の活用といった、住み手が行っている日常の収納習慣についても調査を実施し、実態を考慮したクローゼットプロトタイプ提案を行う。

### ■ 調査方法

WEBアンケートを3回実施

自主研究では関東圏での家庭訪問事例を収集しているため、地域は関東圏に限定

アンケート調査の第1回は20歳代から60歳以上のターゲット設定、第2回は30歳代から50歳代までで子どもと暮らすファミリー家庭が対象、第3回では共働きファミリー家庭限定で補足アンケートとして実施した。

### ■ 研究方法

- ①本研究を行う以前に行ってきた、クローゼットの自主研究をもとに、収納の現状と課題を整理しプロトタイプへと反映する。
- ②アンケート調査の単純集計とクロス集計結果から分析を行い、収納習慣と収納法の傾向をプロトタイプへと反映する。

### ■ 結果概要

「衣替え」の収納習慣を「通年派」「入替派」「一部派」「都度派」4タイプに分類し、各タイプの整理収納法を設定したうえでクローゼットプロトタイプを設計を行った。その際に、衣類を選びやすく出し入れのしやすい「日常の収納」と、季節衣類の入れ替えがラクに行える「季節の収納」とが、どちらもスムーズに進められることを想定している。また、タイプごとにクローゼットの特徴が把握できるよう衣類の収納点数の算定を行った。

その設計過程で、「通年派」と「入替派」のクローゼットのかたちの差が明らかになった。「一部派」と「都度派」の場合は、入れ替えのタイミングと程度に応じて中間的に位置づけられる。そのため、収納習慣としての「衣替え」のタイプをもとにクローゼットプロトタイプを3案とした。

さらにその3案をもとに、クローゼット収納に衣類以外の生活用品をしまうことを想定した活用例を示している。衣類収納の方法と数量を調整することによって、衣類以外のものも収納するクローゼット提案を行うことが可能となる。

### ■ 今後の課題

衣類の種類と数量、日常と衣替えの収納タイプ、クローゼットの寸法と内部の仕様といったソフトとハードの連携のあり方をプロトタイプとして示すことができた。この研究を契機として、クライアントの現状と要望を聞き取り、その内容をクローゼットの設計にどのように反映していくのが課題となる。

また実施段階では、扉の有無、扉の仕様、ウォークインクローゼットへの適用、大工工事・造作家具・システム収納での展開などの検討課題が残されている。

# クローゼットの自主的先行調査結果 ～2018年

## クローゼットのタイプ分類

2008年に自著本「朝、着る服に迷わないハッピー収納術」（大和書房）をリリースして以来、一般家庭とプロの家庭を訪問して、衣類収納の方法、クローゼットの使い方、クローゼットの造りについてのヒアリングと撮影を行ってきた。

約10年間にわたる訪問を重ねるなかで、ひとくちにクローゼットと称してはいるものの、実際には住まいの造りと各家庭の使い方によって、種類がいくつかあることが明らかになった。そのクローゼットの造りと使い方両面から8種類としてタイプ分類を行った。

<p>クローゼット Ⅰ凹型</p> <p>特徴：壁面に埋め込まれる形の造り付け収納でハンガーパイプと棚と扉で構成される。ダボでパイプと棚が可動式もある</p>	<p>ウォークイン クローゼット L型</p> <p>特徴：ハンガーパイプの形状と枕棚をL字状に設置。内部は四角い形もしくは入口が隅切りのように削られた形がある</p>	<p>ウォークイン クローゼット U型</p> <p>特徴：ハンガーパイプの形状と枕棚をL字状に設定。パイプは枕棚下に取り付けもしくは壁と床に固定されている場合もある</p>	<p>ウォークイン クローゼット Ⅱ型</p> <p>特徴：ハンガーパイプと枕棚を通路を挟んで2列に設定。造作家具による棚や引き出しが設置されることもある</p>
			
<p>クローゼット Ⅰ凸型</p> <p>特徴：室内に箱型のクローゼットを設置。ハンガーパイプと棚と扉で構成される。ダボでパイプと棚が可動式もある</p>	<p>衣裳部屋①</p> <p>特徴：衣類をしまうための収納部屋。造り付けの枕棚とハンガーパイプに加えて、市販のドレスラックを置いて使用する</p>	<p>衣裳部屋②</p> <p>特徴：衣類をしまうための収納部屋。市販の組み立てラックだけで構成。使い方に合わせてカスタマイズする</p>	<p>クローゼット D85型</p> <p>（奥行が押し入れサイズ） 特徴：ハンガーパイプと棚と扉で構成される。奥行きが深いため、パイプが前後2列に設置されていることがある</p>
			

2018年までに実施した取材より

## 衣類収納とクローゼットの課題実例

衣類は予想以上に入れ替わりの激しいアイテムである。季節によって、サイズが変わることによって、買い足すことによって、衣類の種類や大きさ、数に左右される。また、身につけたあとに洗濯して収納するという工程の中で、並び順が変わることもある。そのため、クローゼットの内部がいつも同じ景色になっているとは限らない。結果として、使いたい衣類がすぐに見つからないといったことが起こる。

さらに、衣類が増えると詰め込むようにして収納することになり、何処に何があるのかが把握できなくなる。

このような困りごとの原因として、衣類のしまい方とクローゼットの使い方が定まっていなことが考えられる。その実態を知るためにこれまで訪れた家庭の実例をもとに、代表的な問題点を11項目にまとめた。

**ケース1：収納用品の選び方が分からない**

衣類をたたんで収納するときに、棚を使うか引き出しを使うか？どちらの方法にするのかの判断に戸惑うケース。仮に市販の引き出しケースを利用する場合でも、以前から使っていた収納用品で間に合わせていたり、必要になったらその都度買い足しているせいでケースの幅・奥行・高さがマチマチになる。

収納用品を購入する前に、クローゼットを採寸していないことがよくある。

**ケース2：空いたスペースの使い方が分からない**

ハンガー掛けにした服の裾から床までの空いたスペースが有効に使えない。衣類の入った袋、段ボール箱などを床に直置きして、その上にさらに衣類を積み上げた状態になりやすい。

**ケース3：ウォークインクローゼットに踏み込めない**

衣類以外のモノをしまい始めると、時間経過とともに納戸のような使い方になり、本来しまいたかった衣類が収納できなくなる。また、大小様々なモノが床置きになっているため、入り口がふさがれてしまう。その結果、収納しているモノの管理が行き届かなくなり、開かずの収納場所になる。

例えばスーツケース、子どものおもちゃ、季節家電、本、スポーツ用品、荷物を入れた段ボール箱、節句用品、クリスマスツリーなどがある。

**ケース4：枕棚が上手く使えない**

手が届きにくい高さにある棚なので、踏み台が必要になる。そのため、いったんモノを置いてしまうと出し入れが面倒になり、しまったままの状態になりやすい。また、しまいたいモノのサイズと、棚の高さ・幅・奥行きを活かしにくい。



2018年までに実施した取材より

## 衣類収納とクローゼットの課題実例

**ケース5：枕棚がないから収納が足りない**

ハンガーパイプは設置されているが、枕棚がないため天井までのスペースが有効に使えない。

**ケース6：たれ壁があるため枕棚が使いにくい**

クローゼットの内部は天井まで使える空間になっていても、収納扉の高さが足りないため、たれ壁が障害となって枕棚が使いにくい。

**ケース7：たたんだ服が乱れる**

衣類をたたんでから収納しているが、出し入れを繰り返すうちに引き出しの中が乱れたり、詰め込み過ぎて閉まらなくなったりする。

**ケース8：季節の違う衣類が入り乱れる**

季節に関わらず衣類をハンガー掛けにして収納していると、冬物と夏物とが隣同士に並んでいることがあるなど、季節の違う服が混在する。そのため、今の時期に着たい服が見つげにくくなったり、似たような服を新たに買ってきたりするなど無駄なことが増える。

**ケース9：家族の衣類が混在する**

家族でクローゼットを共有している場合、空いている所があるとそれぞれが適当に衣類を掛けてしまうため、自分の服と家族の服とが混在して、探す時間が増えたり、コーディネートしにくくなったりするなど選びにくくなる。

**ケース10：デッドスペースが活かさない**

ウォークインクローゼットでL字型にハンガーパイプが設置されていると、角の部分に衣類が掛けられない。枕棚も角の所にモノを収納すると取り出しにくくなる。

**ケース11：寝室が落ち着かない**

クローゼットにしまいきれなかった服が部屋にあふれていたり、繰り返し着る上着を室内に掛けたままにしたりするため目障りになる。溢れた服を片づけるために家具を増やして収納すると部屋が狭くなる。



## 衣類収納とクローゼットの上手な活用例

同じ仕様のクローゼットであっても、衣類のしまい方とクローゼットの使い方で、快適な衣類収納を実現させている家庭がある。衣類のしまい方として大きくは、ハンガー掛けにする方法とたたんで収納する方法がある。しまい方にはその2つの方法しかないにも関わらず、上手くいく場合とそうではない場合の違いは何なのか。

また、ハンガーパイプと棚でしつらえられたクローゼットを使いやすくするうえで必要なことは何なのか。

その2つの観点から、衣類収納とクローゼットの活用例を取材して11ケースにまとめるにあたり、そこであらたに、収納用品の選び方と使い方を新たな観点として加えることになった。

しまい方とクローゼットの造りに合った収納用品を利用することは、収納を快適な状態に保つうえで有効な手段となる。

**ケース1：引き出しケースを使ってたたんだ衣類を整理整頓**

シャツやニット、ジーンズなどのたためる衣類のしまい方として、棚の上に積み重ねた状態にすることがある。すると、使いたい衣類を1着取り出すときに、その上下にあるものが乱れ崩れることがある。一方、引き出しケースを使って、たたんだ衣類を縦向きに差し込むように並べて収納すると、選びやすく出し入れもしやすい。

また、下着やソックスなど小さな衣類もしまえる。

**ケース2：クローゼットを計測して収納用品を選ぶ**

ハンガーパイプと枕棚だけが設置されているクローゼットのほかに、さらに可動の棚が付属している造りもある。システム収納やオーダー家具で引き出しを設置することもあるが、市販の収納用品を組み合わせることが多い。

その場合には、ハンガー掛けにした服の裾から床までの空いたスペースに棚や引き出しを配置して、ハンガー掛けにしない衣類やカバンなどの収納に活用する。

収納用品を選ぶ際には、クローゼットの幅・奥行き・高さを計測。あとから買い足すことのできるメーカーの定番商品の中から選択する。

**ケース3：ウォークインクローゼットでは人が入るスペースを確保**

中に人が入れるスペースを残すのはもちろんのこと、床に引き出しケースを配列する際には、ケース手前に引き出せる余裕を残しておく。

そのため、引き出しケースは適切な奥行きを計算して選ぶ必要がある。

**ケース4：収納グッズを使って枕棚を整理整頓**

枕棚には使用頻度の低いモノをしまうのが基本。季節外の衣類や冠婚葬祭のバッグなど、箱などの収納グッズを使って用途別に整理する。



2018年までに実施した取材より

**ケース5：キャスター付きの収納用品でデッドスペースを有効利用**

L字型のウォークインクローゼットでは角の部分に収納用品を置いたりすることがある。その場合にはキャスターをつけると、移動して出し入れすることができる。



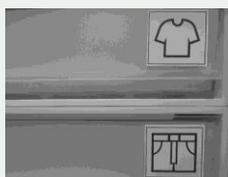
**ケース6：ハンガーの種類を揃える**

クリーニング店のハンガーをそのまま使うのではなく、同じメーカーのハンガーで揃えると、衣類の肩先が揃うので整理整頓がしやすい。  
ハンガーは向きを揃えて並べる。



**ケース7：引き出しケースにラベルを貼る**

引き出しの中を開けなくても中身が分かるように正面にラベルを貼る。  
特に子どもが自分で衣類を選べるようになると、何処に何をしまうのかが分かるので、自分で管理ができるようになる。



**ケース8：ケース単位で季節の服を入れ替える**

引き出しケースを数段積み重ねて使う場合には、出し入れのしやすい位置にオンシーズンの衣類をしまう。入替えをするときには、ケースの枠はそのまま残して、枠内の箱を取り出して別の枠に移動することで、衣替えがスムーズにできる。  
同じメーカーでサイズが同じケースで揃える。



**ケース9：家族それぞれの収納スペースを決める**

家族でクローゼットを共有している場合、空いている所があるとそれぞれが適当に衣類を掛けてしまうため、自分の服と家族の服とが混在して、探す時間が増えたり、コーディネートしにくくなったりするなど選びにくくなる。



**ケース10：壁と扉裏を活用する**

洋服ダンスの扉裏に鏡やフックが付いていたように、クローゼットの扉や内部の壁にもフック、パネルを取り付ける。アクセサリー、ベルト、ネクタイ、帽子など小物を選びやすく片づけることができる



**ケース11：奥行きのあるクローゼットは前後で季節を分ける**

押し入れ収納のような奥行きのあるクローゼットでは、収納用品を前方と後方の2列に配置することができる。前方にはオンシーズンや使用頻度の高いモノを、後方にはオフシーズンや使用頻度の低いモノを収納。キャスターのついた収納用品を並べれば、前後の入れ替えがしやすい。  
またハンガーパイプを前後2列に取り付けて、シーズンオンとオフで並べる。衣類の肩が重複するものの、季節の区別が付けられる。



### IKEAの場合

自分でクローゼットを計画して設置まで行えるワードローブシステムがある。その代表的なシリーズがPAX（パックス）で、サイズ、色、スタイル、引き戸かヒンジ付き扉、収納アクセサリーなど種類が豊富にある。その中から組み合わせを選んで、カスタマイズ。オンラインのプランニングツールを使えるので気軽に取り掛かれる。設置については、DIYが苦手でも組み立てサービスを有料で依頼することができる。

サイズ展開は、幅1,000、奥行600、高さ2,010ミリのタイプ

幅1500・2,000、奥行660、高さ2,010ミリのタイプ

玄関などスペースが限られている場合は幅500・1,000、奥行380（服を正面掛けする）、高さ2,010ミリのタイプなどがある。



奥行380タイプ。設置する場所に合わせて連結した提案例



引き出しの内部を整理するための収納グッズの種類例

### 衣裳部屋に用いた実例

向かい合わせで2列に配置。

収納家具や棚を組み合わせて使いやすくアレンジ。

収納ボックスやナイロンケースを利用して、バッグや小物、

季節の衣類を整理整頓



2018年までに実施した取材より

**無印良品の場合**

1間1,820、半間910mmで設計される日本の住まいに無理なく収まる基準寸法として、840mmを設定。なかでもユニットシェルフは自分で組み立てができるので、用途に合わせて組み換えもできる。

ワードローブバー、棚、帆布バスケット、ワイヤーバスケットを追加すると、クローゼット収納が完成する。さらに、840の1/3、2/3のサイズ展開で、カゴやボックス、引き出しなどの収納用品が展開されているので、しまいたいモノに合えあせて収納法を選ぶことができる。また、収納用品は、ほぼ定番商品とされているので、後から買い足しがしやすい。

ユニットシェルフ自体がシンプルな素材とデザインなので、室内に設置したり、衣装部屋を作るために用いたりするなど、実用性の高いアレンジを可能にしている。



クローゼット収納としてユニットシェルフ幅840を基準に単独あるいは連結して使用した提案例



造りつけのクローゼット内に収納用品を利用して衣類や小物を整理整頓した提案例



プラスチック、金属、天然素材、布製の収納用品のバリエーション例

ユニットシェルフを連結するだけで衣装部屋が作れる。そこに引き出しケースを組み合わせることにより、ただただ衣類の整理がしやすくなるという実例



2018年までに実施した取材より

## 衣類の収納習慣「衣替え」の考察

日本の暮らしでは四季があるという気候風土を前提とした習慣がある。衣類収納についていえば「衣替え」がその代表である。

ただし、着物のように季節を厳密に反映することではなく、また制服を決められた日を境に替えるといったルールがあるわけでもなく、気温の変化に応じた衣類に入れ替えることを「衣替え」としているのが現状なのだと考えられる。その衣替えという習慣も近ごろは変化してきている。その要因は3つあると考えられる。

- ①衣類を入れ替えるための手間がかかる
- ②寒暖調節しやすい夏用と冬用の肌着、通称「機能性インナー」が流通している。
- ③上着で調節をすれば年間を通して着られる衣類を選ぶ傾向にある

共働きや育児、介護など忙しい日々を送る家庭では、衣類を管理する手間と時間を減らしたいという意向が背景にあると考えられる。ふだんの衣類管理においても、たたむ作業を省くために、洗濯した衣類をハンガーで干して、乾いたらそのハンガーのままクローゼットにしまう方法を雑誌やブログなどで紹介され、実践している家庭も増える傾向がある。家事の手間と時間を省くことは、おろそかにしているのではなく、効率よい暮らしにつながる「時短」であるという、肯定的な捉え方も広まってきている。

大手家庭用防虫剤メーカーエステー株式会社が実施した調査により、衣類収納と衣替えの実態が公開されている。そのなかにある要点は下記の通りとなっている。

- ①衣替えをひとりで行う主婦が7割強
- ②家族と一緒に衣替えをする主婦の衣類収納への満足度が6割アップする
- ③ふだんの衣類収納に満足していない主婦が半数以上  
\* 2014年8月実施調査概要プレスリリースより引用（調査対象：20～50代既婚女性）

また、同メーカーが行った別の調査結果概要は下記の通りとなっている。調査は整理収納アドバイザー1級資格（20～50代の女性）を有する収納のプロ100人を対象に実施された。

- ①「衣替え」を収納改善のきっかけとして8割が実施している（一般女性は約6割）
- ②その8.5割の人が約1時間以内で衣替えを行っている（一般女性の8割が、1時間以上行なう）
- ③一般女性とプロの意識を比較したところ、
  - ・一般女性では「収納スペースが狭い」が42%、プロは2%のみ
  - ・一般女性では「どこに何を収納しているかわかりづらい」が9%、プロは53%
  - ・一般女性では「衣類が多すぎる」が41%、プロは79%
  - ・プロが処分している衣類について。着ない服を8割が処分
    - 1位「来シーズンも着る予定がない衣類のみ処分」42%
    - 2位「着ないと判断した段階ですぐに処分」27%
    - 3位「着なかった衣類はすべて処分」11%
  - ・一般女性が処分している衣類について。着ない服を36%が処分
    - 1位「来シーズンも着るかもしれないので処分しない」28%
    - 2位「来シーズンも着る予定がない衣類のみ処分」24%
    - 3位「処分するかどうか未定」23%

この数字から分かることは、プロが意識しているのは衣類の量、分かりやすいしまい方への改善である。

\* 2015年3月実施調査概要プレスリリースより引用

衣類収納を担うクローゼットのプロトタイプを考案するにあたり、収納方法と収納スペースからのアプローチだけではなく、収納習慣としての「衣替え」のあり方を加えて検討を行うこととする。そこで次の3点をもとにアンケート調査を進め、衣類収納の傾向を把握する。

- ①衣類の収納法
- ②クローゼットの使い方
- ③衣替え

## アンケート調査実施概要 第1回

## 調査概要その1 第1回アンケート

## ■調査方法：インターネット調査

## ■調査対象：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に居住する20歳から60歳以上の527名

	n	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
総数	509	90	79	223	117
(%)	100.0%	17.7%	15.5%	43.8%	23.0%

	n	15歳未満	15歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上
総数	509	0	0	99	122	117	108	63
(%)	100.0%	0.0%	0.0%	19.4%	24.0%	23.0%	21.2%	12.4%

## ■調査対象期間：2019年8月26日～9月2日

## ■調査実施機関：株式会社エバーリソース 株式会社ジャストシステム

## ■回答者プロフィール

①職業：就業者の割合は約65%、専業主婦（主夫）が24%となっている。

	n	公務員	経営者・役員	会社員（事務系）	会社員（技術系）	会社員（その他）	自営業	自由業	専業主婦（主夫）	パート・アルバイト	学生	その他
総数	509	16	7	109	42	51	15	15	122	75	26	31
(%)	100.0%	3.1%	1.4%	21.4%	8.3%	10.0%	2.9%	2.9%	24.0%	14.7%	5.1%	6.1%

②婚姻状況：既婚者が約58%となっている。

	n	未婚	既婚
総数	509	212	297
(%)	100.0%	41.7%	58.3%

③子供の有無：子供有りの割合は47%で半数以下となっている。

	n	子供有り	子供無し
総数	509	240	269
(%)	100.0%	47.2%	52.8%

④同居家族の構成：配偶者と暮らす世帯が57%、親との同居世帯が約23%となっている。

	n	配偶者	子ども	孫	自身の親・配偶者の親	その他	同居していない
総数	509	292	190	9	115	51	95
(%)	100.0%	57.4%	37.3%	1.8%	22.6%	10.0%	18.7%

⑤世帯年収：600万円以上が約4割、300万から500万円未満が約2割となっている。

	n	200万円未満	200万円以上300万円未満	300万円以上400万円未満	400万円以上500万円未満	500万円以上600万円未満	600万円以上	わからない/答えたくない
総数	488	24	29	55	54	53	189	84
(%)	100.0%	4.9%	5.9%	11.3%	11.1%	10.9%	38.7%	17.2%

⑥**住居の所有形態**：持ち家が約60%、賃貸が約35%。  
 持ち家では戸建てが約4割でマンションの2割よりも多い。  
 賃貸では、マンションが2割でアパートよりも多い。

	n	持ち家 一戸建 て	持ち家マ ンション	賃貸戸 建て	賃貸マン ション	賃貸ア パート	社宅	その他	
総数	509	197	106	13	103	77	9	4	
	(%)	100.0%	38.7%	20.8%	2.6%	20.2%	15.1%	1.8%	0.8%

⑦**住宅の間取り**：3DK・3LDKが最も多く34%、次いで4DK・4LDKが25%。全体の約7割が3から4室の部屋がある。

	n	ワンルーム	1DK・1LDK	2DK・2LDK	3DK・3LDK	4DK・4LDK	その他	
総数	509	44	45	90	174	128	28	
	(%)	100.0%	8.6%	8.8%	17.7%	34.2%	25.1%	5.5%

⑧**住まいの収納スペース**：クローゼットのある住まいが約7割、ウォークインクローゼットのある住まいが約3割となっている。  
 押入のある住まいが約6割、納戸が約3割と大型収納がしつらえられている。  
 床下収納が約3割、階段下収納が約2割、屋根裏収納が1割強あり、戸建て住宅ならではの収納状況がある。

	n	下駄箱	クローゼット	ウォークインクローゼット	押入	納戸	廊下収納	食品庫	階段下収納	床下収納	屋根裏収納	その他	特にな	
総数	509	429	373	160	325	159	126	76	99	149	67	6	15	
	(%)	100.0%	84.3%	73.3%	31.4%	63.9%	31.2%	24.8%	14.9%	19.4%	29.3%	13.2%	1.2%	2.9%

⑨**収納スペースの充足度**：足りている・十分足りているという回答が3割強、足りない・全然足りないとする回答が約3割、もう少しスペースが欲しいとの回答が3割強。  
 多少に関わらず収納スペースに不足を感じている世帯が7割弱となっている。

	n	十分足りている	足りている	もう少しスペースが欲しい	足りない	全然足りない	
総数	509	64	102	187	96	60	
	(%)	100.0%	12.6%	20.0%	36.7%	18.9%	11.8%

⑩**収納したいアイテム**：衣類が7割強で、他のアイテムに比べて圧倒的に多くなっている。

	n	靴	衣類	食器	調理道具	本や雑誌	寝具	おもちゃ	趣味のもの	レジャー用品	その他	
総数	343	119	252	62	58	118	102	42	109	57	12	
	(%)	100.0%	34.7%	73.5%	18.1%	16.9%	34.4%	29.7%	12.2%	31.8%	16.6%	3.5%

⑪ **収納スペースを増やしたい場所**：クローゼットが6割弱と最も多い。次いで4割がリビングダイニングとなっている。

	n	リビングダイニング	キッチン	玄関	子供部屋	洗面所	トイレ	クローゼット	押入	納戸
総数	343	147	123	125	53	80	54	194	114	84
(%)	100.0%	42.9%	35.9%	36.4%	15.5%	23.3%	15.7%	56.6%	33.2%	24.5%

⑫ **衣類の収納場所**：クローゼットが6割強と最も多く、ウォークインクローゼットは3割弱、押入が4割弱。洋服ダンス（4割）、整理ダンス（3割）、カラーボックス（2割強）、組み立て式ラック（3割弱）など、備え付けの収納場所以外に家具を利用している。

	n	クローゼット	ウォークインクローゼット	押入	納戸	洋服ダンス	和ダンス	整理ダンス	組み立て式ラック	カラーボックス	その他
総数	509	329	131	187	64	221	79	148	135	119	12
(%)	100.0%	64.6%	25.7%	36.7%	12.6%	43.4%	15.5%	29.1%	26.5%	23.4%	2.4%

⑬ **収納場所への不満**：スペース不足が6割強でハンガー掛けの場所が少ないことが4割強。収納場所が家の中で分散していることへの不満が3割弱となっている。

	n	収納スペースが不足している	ハンガー掛けの場所が少ない	収納する場所が家のあちこちに分散している	収納場所の奥行きが深い	収納場所の奥行きが浅い	収納場所に無駄な空間が残る	収納場所の形が悪い	湿気がある	暗い	その他	特にない
総数	353	231	156	92	33	56	52	52	77	23	3	18
(%)	100.0%	65.4%	44.2%	26.1%	9.3%	15.9%	14.7%	14.7%	21.8%	6.5%	0.8%	5.1%

⑭ **収納に困る衣類**：冬服が6割と最も多く、夏物は3割弱となっている。

	n	特にない	着替えたときの服	冬物の衣類	夏物の衣類	スポーツ・レジャーの衣類	丈の長い衣類	着物	その他	特にない
総数	509	81	127	311	150	86	178	37	8	33
(%)	100.0%	15.9%	25.0%	61.1%	29.5%	16.9%	35.0%	7.3%	1.6%	6.5%

⑮ **季節の衣類の入れ替えについて**：「入替えしない」が約25%「全部入れ替える」が25%で、「季節に合わせて一部入れ替え」が約42%となっている。

	n	入替えはしない	季節に合わせて全部入れ替える	季節に合わせて一部だけ入れ替える	気づいたときにその都度入れ替える
総数	509	126	128	213	42
(%)	100.0%	24.8%	25.1%	41.8%	8.3%

⑮満足できる衣類収納のコツ：「収納スペースが広い」「衣類の数を減らす」がそれぞれ6割弱と同じ割合。次いで「ふだんから片づける」が5割となっている。「家族それぞれにクローゼット」「ウォークインクローゼットでまとめて収納」がそれぞれ2割強となっている。

	n	収納スペースが広い	各部屋にあるクローゼットを家族それぞれが使う	ウォークインクローゼットでまとめて収納する	ふだんからこまめに片づける	衣類の数を減らす	家族に任せられるようにする	その他	わからない
総数	509	285	118	129	250	288	29	0	32
(%)	100.0%	56.0%	23.2%	25.3%	49.1%	56.6%	5.7%	0.0%	6.3%

⑯衣類と同じ所にしまいたいモノ：「下着・ソックス」「マフラー・ストール・手袋・帽子」「寝間着・部屋着」「カバン・バッグ・リュック」「レジャー・スポーツウエア」の順で身につけるモノが多くなっている。

	n	下着・ソックス	寝間着・部屋着	レジャー・スポーツウエア	マフラー・ストール・手袋・帽子	アクセサリー・腕時計	カバン・バッグ・リュック	スーツケース・キャリケース	布団・毛布・シーツなどの寝具	タオル	書籍	書類	季節家電	クリスマス、節句、正月用品	その他	特にない
総数	509	291	244	149	252	60	187	70	83	61	9	9	26	27	1	77
(%)	100.0%	57.2%	47.9%	29.3%	49.5%	11.8%	36.7%	13.8%	16.3%	12.0%	1.8%	1.8%	5.1%	5.3%	0.2%	15.1%

## 調査結果と分析 第1回

概要その1 第1回アンケート結果と分析

■収納状況の分析：クローゼットの収納スペース不足

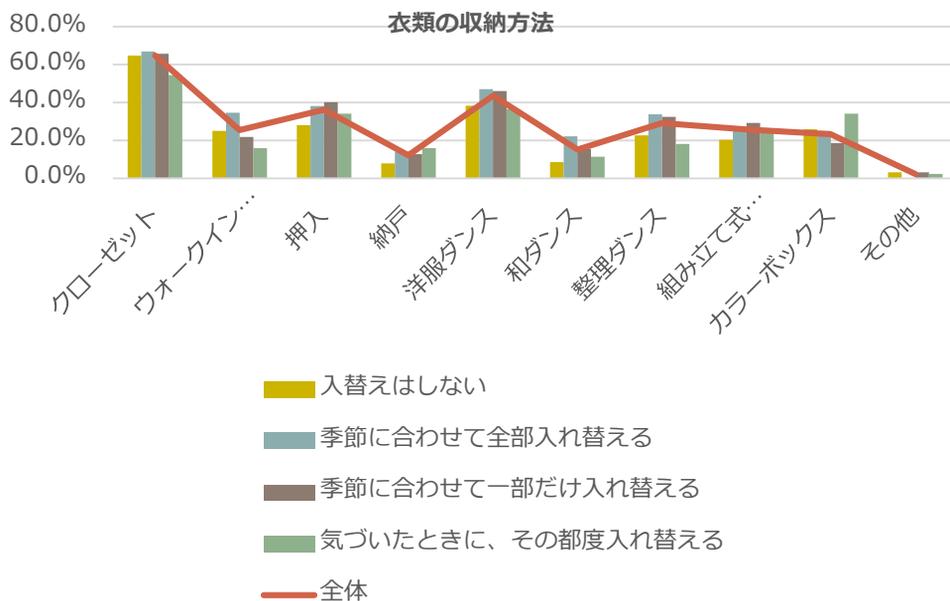
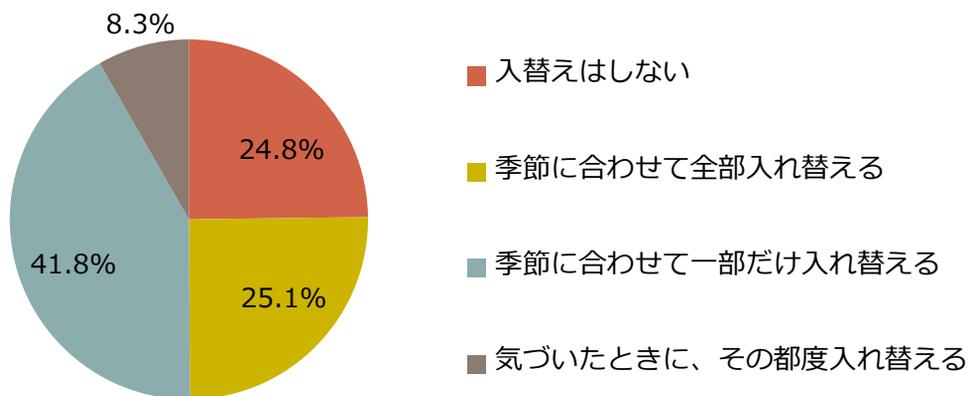
住まいの収納スペースとしてのおもな形がクローゼットとなっており、ウォークインクローゼットのある住まいは多くない。その一方で、押し収納のある住まいもある。そうした収納条件のある住まいに対して、収納スペースの不足を多少なりとも感じている人が7割に近いという現状がある。具体的には、クローゼットの収納スペースを増やしたい人が多く、次いでリビングダイニングの収納となっている。

■衣類収納の分析：7割が衣類の入れ替えをしない

衣類収納にはクローゼットを利用するかたわら、押し入れを使っていたり、洋服ダンスや整理ダンス、カラーボックスや組み立て式ラックを使っていたりするなど、収納スタイルは多様である。そのため収納スペースへの不足感や、家のあちこちに分散収納せざるを得ないことへの不満が垣間見られる。

衣類収納の中でもかさ張りがちな冬物に悩まされている。季節に合わせて衣類の入れ替える「衣替え」の習慣については、「全部入れ替える」という人が25%。「全く入れ替えない」25%と「一部入れ替える」42%を合わせると、いわゆる「衣替え」をしない人が7割弱と圧倒的に多い。

「全部入れ替える」「一部入れ替える」人の収納方法では、押し入れやダンスを利用することがやや多い傾向にある。



概要その1 第1回アンケート結果と分析

■衣類の収納習慣パターンの名称設定：4パターン

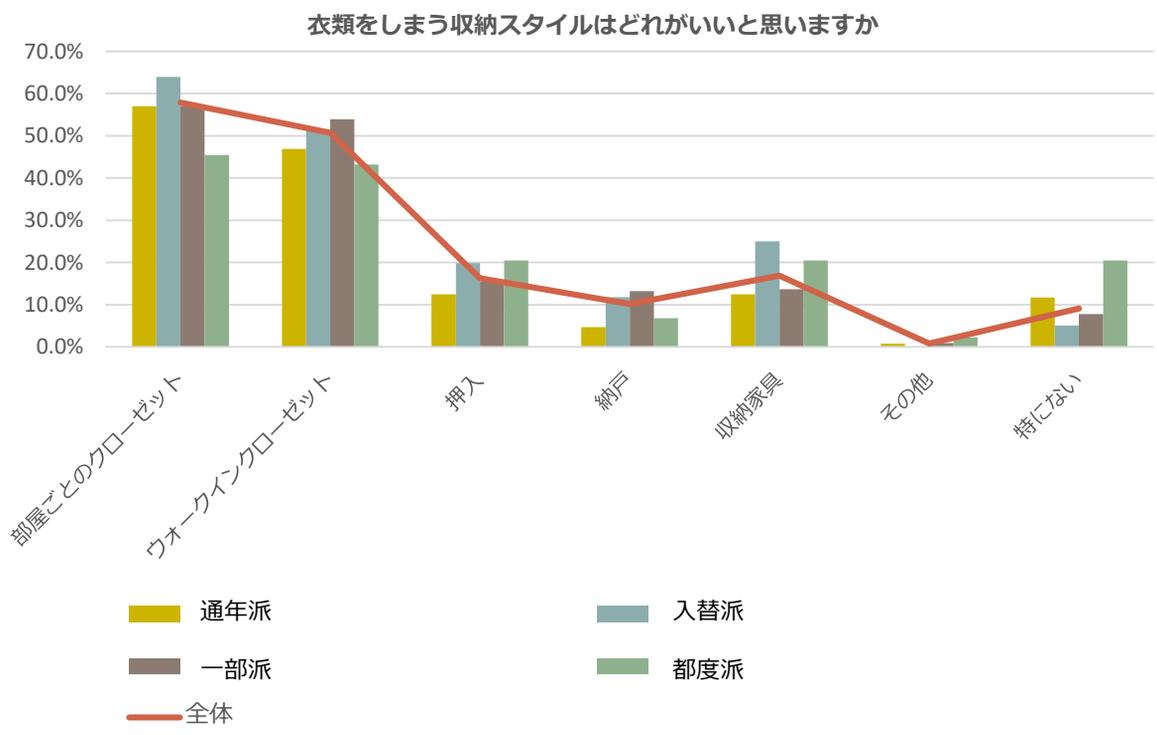
アンケートの単純集計結果をもとにクロス集計を行うにあたり、「衣替え」という収納習慣を4パターンに分けて、それぞれの名称を便宜的に以下のとおりとする。

- ・衣類の入れ替えをしない 「通年派」
- ・季節に合わせて全部入れ替える 「入替派」
- ・季節に合わせて一部入れ替える 「一部派」
- ・気づいたときにその都度入替え 「都度派」

■パターンごとの特徴：

①望んでいる収納スタイル

入替派は部屋ごとのクローゼット、一部派はウォークインクローゼットのスタイルを希望している。入替派と都度派は収納家具を使いたいとする傾向がある。

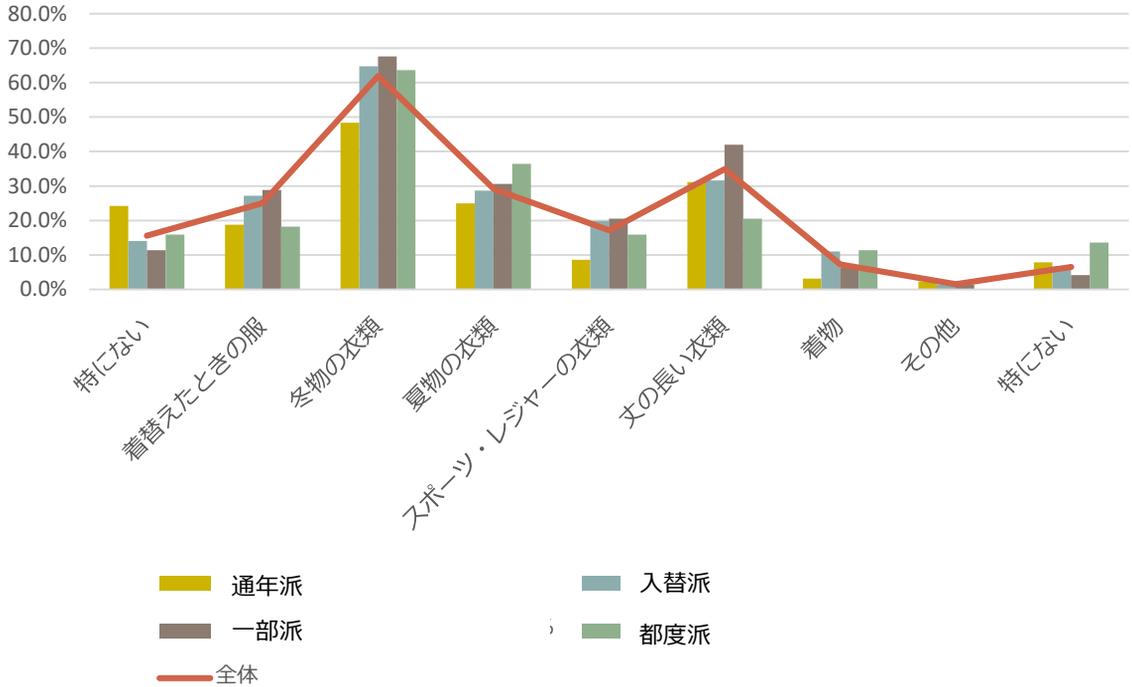


■パターンごとの特徴：

②収納に困っている衣類

通年派は入れ替えをしなくても困らないよう、収納法の工夫がされていることが推測できる。それに対して一部派は冬物衣類と丈の長い衣類に困っている傾向が高くなっている。

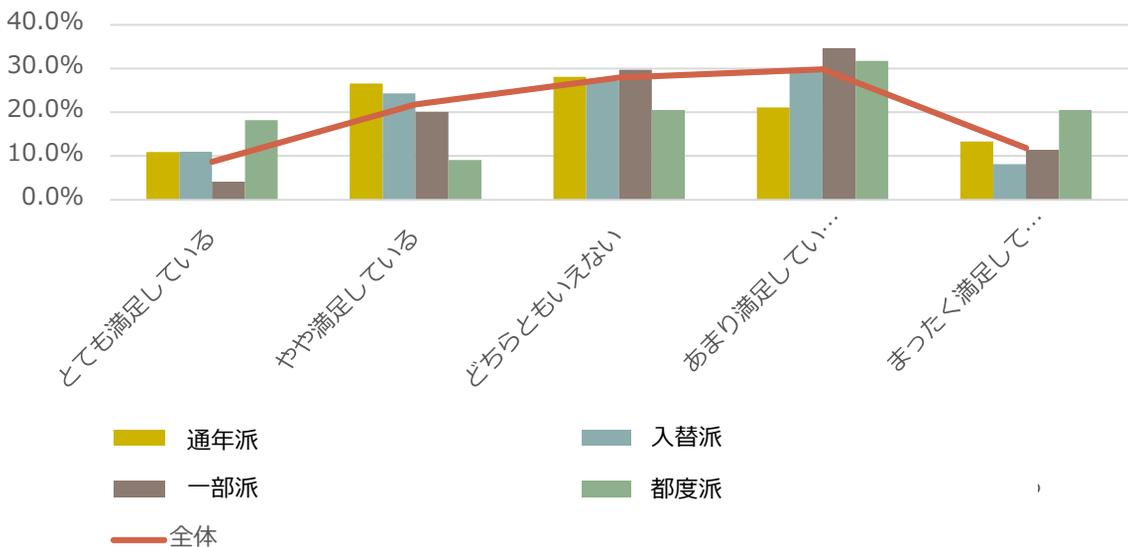
収納に困っている衣類は何ですか（複数可）



③衣類収納への満足度

通年派、入替派は満足と不満足とがほぼ同数に分かれるが、一部派と都度派は不満足が高い傾向にある。

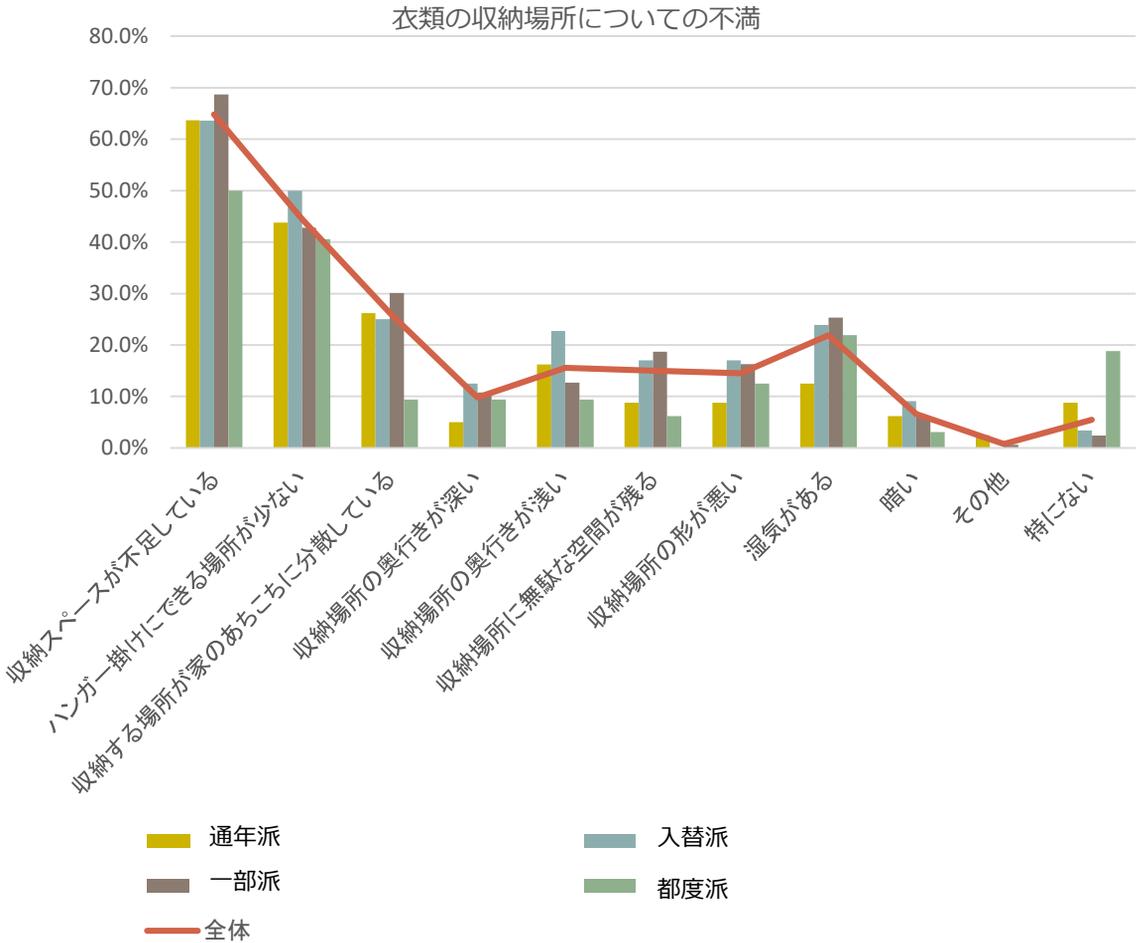
ふだんの衣類収納について、どの程度満足していますか



■パターンごとの特徴：

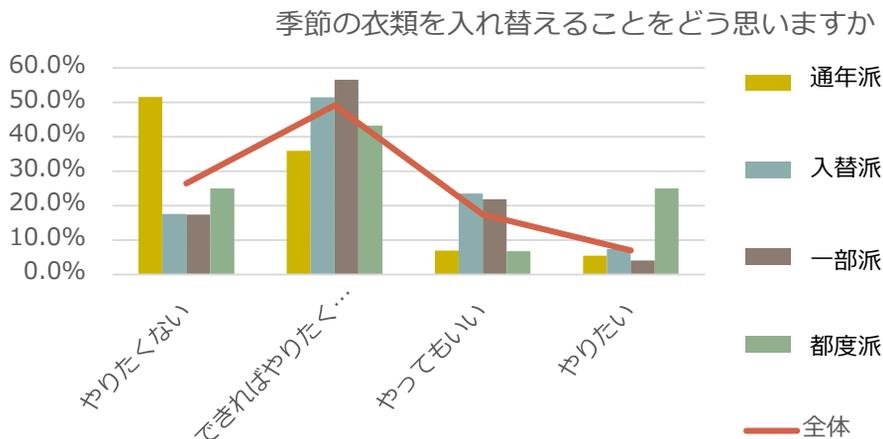
④衣類収納場所への不満

収納スペースの不足は全派に共通しているが、一部派は特に高い傾向にある。また、収納場所が家のあちこちに分散していることへの不満が目立つ。入替派はハンガー掛け収納できる場所の不足と浅い奥行きに不満を抱いている。



⑤衣替えについての考え方

衣替えをしたくないから通年派、仕方なく行っているのが一部派と入替派。やりたいと持っている都度派もいる。



## アンケート調査実施概要 第2回

第1回アンケートの結果をもとに、子供と暮らすファミリー家庭を対象に衣類収納についてさらに具体的な設問を設定して調査を行った。

■調査方法：インターネット調査

■調査対象：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に居住する20歳から59歳までの330名

	n	15歳未満	15歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳以上	
総数	307	0	0	95	89	64	59	0	
	(%)	100.0%	0.0%	0.0%	30.9%	29.0%	20.8%	19.2%	0.0%

■調査対象期間：2019年9月11日から9月18日

■調査実施機関：株式会社エバーリソース 株式会社ジャストシステム

■回答者プロフィール

①職業：就業者の割合は約60%、専業主婦（主夫）が約37%となっている。

	n	公務員	経営者・役員	会社員（事務系）	会社員（技術系）	会社員（その他）	自営業	自由業	専業主婦（主夫）	パート・アルバイト	学生	その他	
総数	307	8	5	69	36	13	9	3	113	44	3	4	
	(%)	100.0%	2.6%	1.6%	22.5%	11.7%	4.2%	2.9%	1.0%	36.8%	14.3%	1.0%	1.3%

②婚姻状況：既婚者がほぼ100%となっている。

	n	未婚	既婚	
総数	307	1	306	
	(%)	100.0%	0.3%	99.7%

③子供の有無：子供有りの割合はほぼ100%となっている。

	n	子供有り	子供無し	
総数	307	306	1	
	(%)	100.0%	99.7%	0.3%

④子供の年齢：未就学児の割合が約65%、小学生が28%、中高生が28%、それ以上の学生が12%、社会人が15%となっている。

	n	未就学児（0から2歳）	未就学児（3から4歳）	未就学児（5から6歳）	小学生	中学生	高校生	短大/大学生、専門学校生	社会人	その他	
総数	307	99	60	41	87	46	38	37	48	13	
	(%)	100.0%	32.2%	19.5%	13.4%	28.3%	15.0%	12.4%	12.1%	15.6%	4.2%

⑤世帯で収入を得ている人：回答者自身が55%、その配偶者が82%あり、共働き家庭が含まれている。

	n	あなた	配偶者	子ども	孫	自身の親・配偶者の親	その他	特にいない	
総数	307	169	254	74	10	22	2	2	
	(%)	100.0%	55.0%	82.7%	24.1%	3.3%	7.2%	0.7%	0.7%

⑥片づけたいと思うか：「よくある」「ある」を合わせて85%

	n	よくある	ある	たまにある	ない
総数	307	185	78	27	17
(%)	100.0%	60.3%	25.4%	8.8%	5.5%

⑦片づけたい場所：リビングダイニングとクローゼットそれぞれが5割を超える。

	n	リビングダイニング	キッチン	クローゼット(衣類収納)	寝室	子供部屋	和室	押入	納戸	物入れ	玄関	洗面所	廊下	その他
総数	290	168	117	157	103	102	44	88	51	76	68	56	30	7
(%)	100.0%	57.9%	40.3%	54.1%	35.5%	35.2%	15.2%	30.3%	17.6%	26.2%	23.4%	19.3%	10.3%	2.4%

⑧片づけたいアイテム：おとなの衣類が5割を超え、次いで子供の衣類が4割強となっていて、他のアイテムよりも片づけたいという意向が強い。

	n	書籍	書類・プリント	食器	キッチン道具	おとなの衣類・ファッション小物	子どもの衣類	靴	趣味道具	子どものおもちゃ	子どもの作品	写真・アルバム	思い出の品	いただき物	その他
総数	290	85	111	82	86	159	121	61	73	110	54	60	58	46	7
(%)	100.0%	29.3%	38.3%	28.3%	29.7%	54.8%	41.7%	21.0%	25.2%	37.9%	18.6%	20.7%	20.0%	15.9%	2.4%

⑨衣類収納で困っている内容：4割強が服のもち方と使い方について、「たくさんあっても着る服が決まっている」「似たような服がある」という回答。「収納が足りない」が4割。しまい方については「どこにしまったか分からない」「脱いだ服が散らかる」という傾向にある。「季節の違う服が混ざる」という回答が3割弱ある。

	n	たくさんあっても着る服が決まっている	似たような服がある	どこにしまったか分からない	しまい方が分からない	脱いだ服が散らかる	季節の違う服が混ざる	収納が足りない	その他
総数	186	85	81	63	46	59	52	77	5
(%)	100.0%	45.7%	43.5%	33.9%	24.7%	31.7%	28.0%	41.4%	2.7%

⑩衣類収納のふだんの様子：「室内に数着の衣類が出ている」が4割弱で、6割の家庭ではほぼ片づいている状態。

	n	収納場所にしまっており、室内に衣類は出していない	室内に出ている衣類は、その日に着たものだけになっている	室内には数着の衣類が出ている	その他
総数	307	97	94	114	2
(%)	100.0%	31.6%	30.6%	37.1%	0.7%

⑪季節衣類の入れ替え意向：「入替派」「一部派」がほぼ同数、次いで「通年派」

	n	入替えはしない	季節に合わせて全部入れ替える	季節に合わせて一部だけ入れ替える	気づいたときに、その都度入れ替える	その他	
総数	307	71	103	104	25	4	
	(%)	100.0%	23.1%	33.6%	33.9%	8.1%	1.3%

⑫収納用品の利用：プラスチックの引き出しケースの利用が6割、プラスチックのフタつき衣装ケースが4割で収納用品の利用率が高い。そのほか、ハンガーラックやカラーボックスの利用もやや高い。

	n	現在利用しており、今後も利用したい	利用していないが、興味はある	利用しておらず、取り入れたい	利用しておらず、興味がない	あてはまるものはない
プラスチックの引き出しケース	307	59.9%	10.4%	9.8%	13.0%	6.8%
プラスチックのフタつき衣装ケース	307	41.7%	11.4%	12.4%	23.5%	11.1%
布製の収納ケース	307	19.2%	13.4%	12.1%	38.1%	17.3%
布製の仕切り付きボックス	307	14.0%	17.9%	18.6%	34.9%	14.7%
カラーボックス	307	24.1%	13.7%	16.0%	31.9%	14.3%
ドア用フック	307	16.6%	18.2%	13.0%	37.5%	14.7%
収納ホルダー	307	14.3%	18.2%	16.3%	35.8%	15.3%
踏み台	307	21.5%	16.9%	14.0%	32.9%	14.7%
ハンガーラック	307	37.1%	17.9%	11.4%	23.1%	10.4%

⑬衣類の収納方法：ハンガー掛けの収納を行っている・行いたいという傾向がある一方で衣類の種類に応じてたたんでから引き出しに収納する方法と組み合わせている。

	n	現在行っており、今後も利用したい	行っていないが、興味はある	行っておらず、取り入れたい	行っておらず、興味がない	あてはまるものはない
洗濯後にハンガーに掛けて乾いたらそのままのハンガーでしまう	307	34.2%	16.3%	15.3%	22.8%	11.4%
ハンガーに掛けられる服すべてをハンガーで収納する	307	27.0%	24.8%	15.0%	21.2%	12.1%
ハンガー掛けとたたむ服を組み合わせで収納する	307	43.0%	15.0%	16.0%	14.0%	12.1%
たたんだ衣類を棚に並べる	307	26.1%	17.9%	15.0%	29.0%	12.1%
たたんだ衣類を引き出しに入れる	307	58.3%	14.7%	11.7%	10.4%	4.9%
たたんだ衣類を積み重ねる	307	38.8%	15.3%	14.3%	18.2%	13.4%
たたんだ衣類を立てて並べる	307	30.0%	23.5%	15.3%	20.2%	11.1%
四角い形にたたむ	307	33.9%	20.5%	14.3%	17.6%	13.7%

⑭衣類収納の場所：家族別の場所が5割弱、家族で共用が3割弱となっている。

	n	家族全員で 共用	子供だけは 共用	親だけは共 用	家族それぞ れが別	その他
総数	307	82	32	48	145	0
(%)	100.0%	26.7%	10.4%	15.6%	47.2%	0.0%

⑮90センチ幅のクローゼットユニット：家族それぞれに希望するユニット数について、1ユニットという回答が中心となっているが、妻用として2ユニットと2.5ユニットを望む傾向がある。

\*「必要ない」という回答は、設問の捉え方によって現状で足りているという解釈と推測される。

	n	0.5ユニッ ト以下	1ユニット	1.5ユニッ ト	2ユニット	2.5ユニッ ト以上	必要ない
子供ひとり分	307	13.0%	37.8%	13.4%	13.0%	3.9%	18.9%
夫用	307	10.4%	32.9%	13.7%	16.3%	5.9%	20.8%
妻用	307	7.5%	26.1%	13.0%	23.8%	11.1%	18.6%

⑯クローゼットの仕様：パイプ1列のクローゼットを使いたいという傾向にあるが、夫用と妻用ではウォークインクローゼット使用への意向がある。また妻用には2列型のウォークイン意向が強い。

	n	子ども用	夫用	妻用	その他	使用したく ない
クローゼット①	307	43.0%	46.3%	46.9%	10.4%	17.3%
クローゼット②上下2段	307	35.5%	33.9%	38.4%	8.5%	24.1%
ウォークインクローゼット ①L字型	307	31.3%	43.3%	46.6%	9.8%	23.1%
ウォークインクローゼット ②2列型	307	32.2%	43.0%	52.4%	8.1%	21.5%
市販の組み立てラック	307	38.8%	31.9%	30.9%	12.4%	30.0%

## 調査結果と分析 第2回

概要その2 第2回アンケート結果と分析

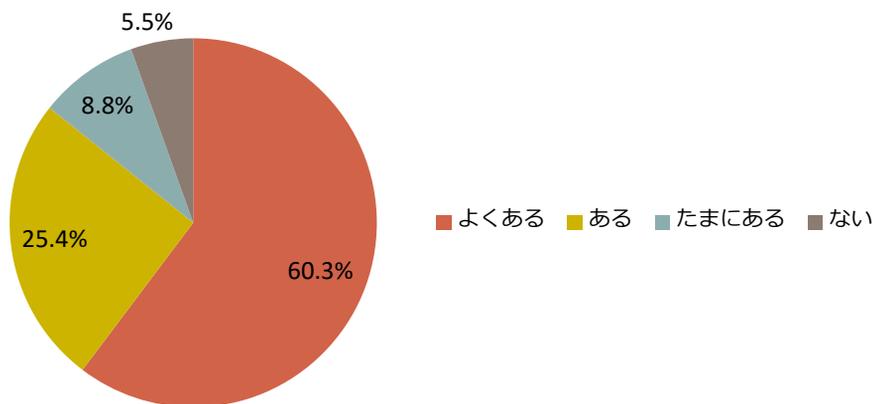
■ 収納状況の分析：ふだんの様子が生徒によって異なる

毎日のように着替える衣類が、きちんと整理整頓された状態になっているのか否かについて、ふだんの様子を尋ねてみたところ、「室内に衣類が出ていない」家庭が31.6%、「室内に出ているのは、その日に着たものだけ」の家庭が30.6%、「室内には数着の衣類が出ている」家庭が37.1%。片づけ上手な人が家族の中に一人以上いるのか否か、片づけに費やせる時間が十分にあるのか、収納場所が足りているのかといった、いくつかの条件に左右される。育児に時間と労力のかかる子どもと暮らす家庭の場合は、子どもの年齢と人数による影響があることも想定される。

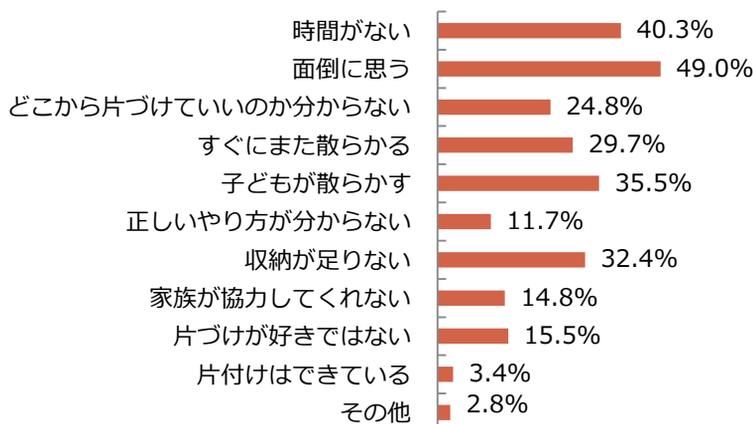
■ 収納状況の分析：片づけたい場所がリビングダイニングとクローゼット

子どもと暮らす家庭のリビングダイニングは、子どもが遊んだり学習をしたり、家族と過ごしたりするなど多用途に使われることが多いため、散らかりやすく片づけにくい場所となる。その結果が今回の回答にも表れている。クローゼットの場合は用途が定まっているものの、毎日の着替えと洗濯、季節の入れ替え、子ども服のサイズ代わりによる入れ替えなど、手のかかる家事労働のひとつになっている。その他にもキッチンや子ども部屋など、片づけたい場所がいくつかある。こうした「片づけなければいけない」という負担の一つとなっているクローゼット（衣類収納）を改善することによって、他の場所を片づけるための労力と時間が生み出せる契機になることが期待される。

自宅の片づけをしたいと思ったことがありますか



片づけたいと思ってもできない場合、理由は何ですか)



概要その2 第2回アンケート結果と分析

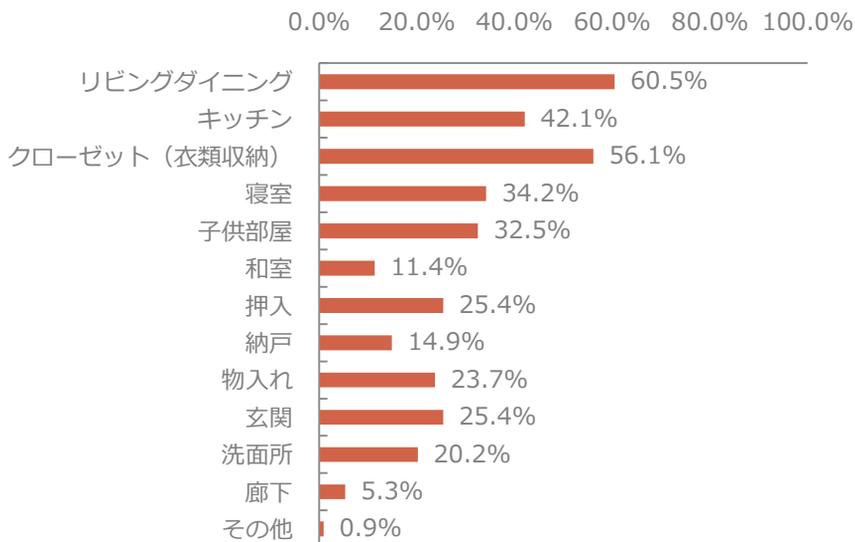
■共働き家庭と一般家庭の2区分で再集計

第2回調査では、子どもと暮らす家庭を対象に行っている。そのうち共働き家庭と一般家庭（専業主婦・主夫）の2区分で再集計を行い、家庭による回答の違いについて分析を行った。

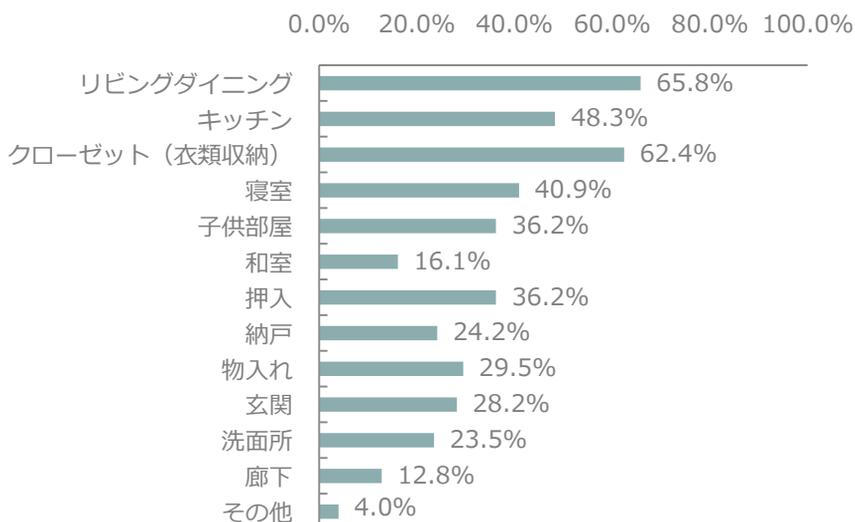
■共働き家庭と一般家庭の比較：「片づけたい場所」

「片づけたい場所」はリビングダイニング、クローゼット、キッチンという順位は共通しているが、共働き家庭のほうが一般家庭よりも比率が高く、押入れ、納戸、物入れといった収納場所を片づけたいと感じている傾向がみられる。

一般家庭：片づけたい場所はどこですか？



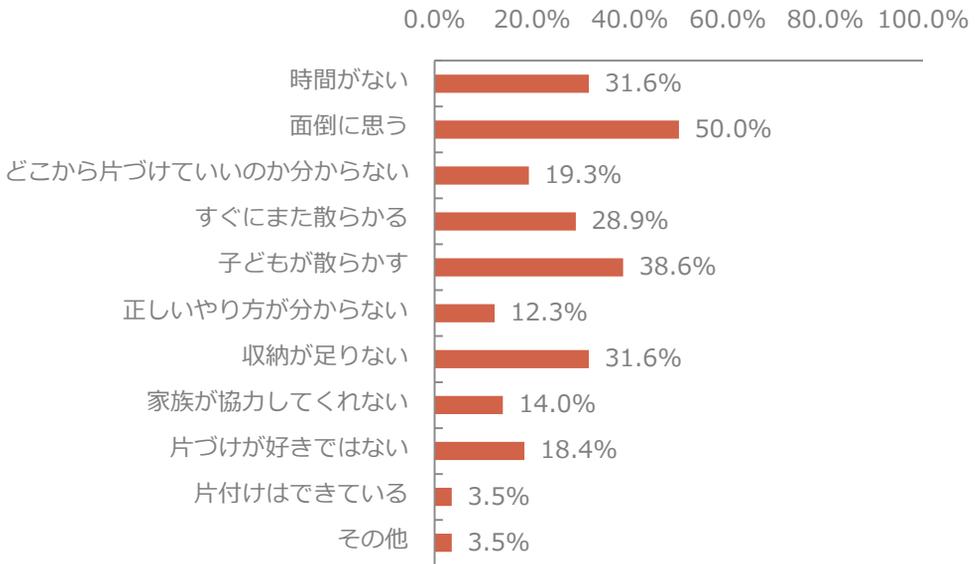
共働き家庭：片づけたい場所はどこですか？



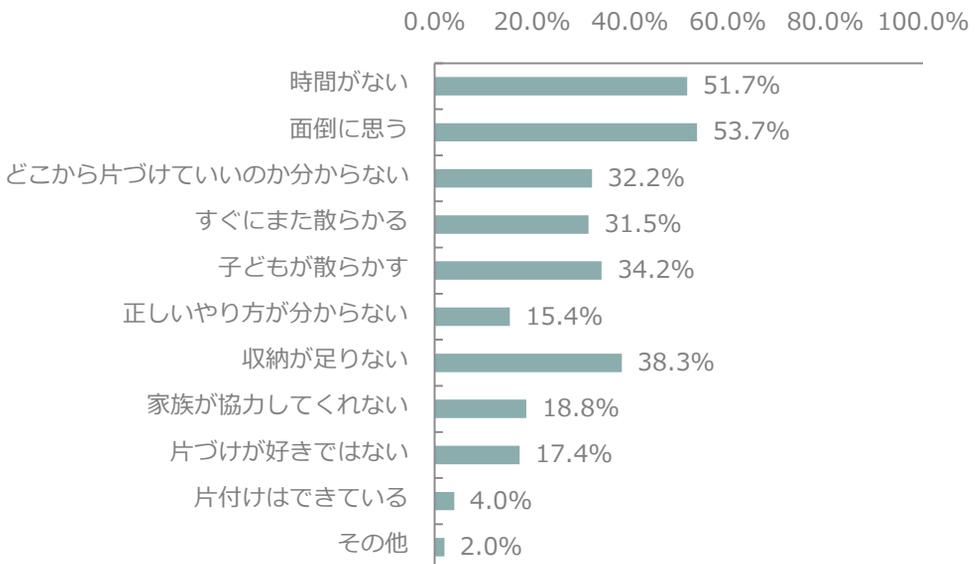
■ 共働き家庭と一般家庭の比較：「片づけたいと思ってもできない理由」

「面倒に思う」「子どもが散らかす」「収納が足りない」という理由は、どちらの家庭にも共通しているが、「時間がない」という事情が共働き家庭の背景にあり片づけに大きな影響を及ぼしている。また、限られた時間のなかで「どこから片づけていいのかわからない」ため、片づけたいけれど片づかないという悩みへとつながっている。

一般家庭：片づけたいと思ってもできない場合、理由は何ですか？



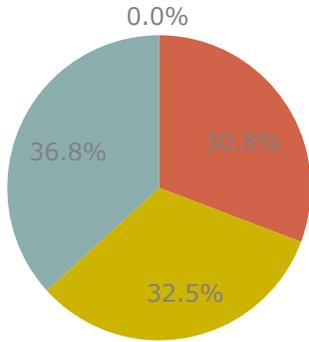
共働き家庭：片づけたいと思ってもできない場合、理由は何ですか？



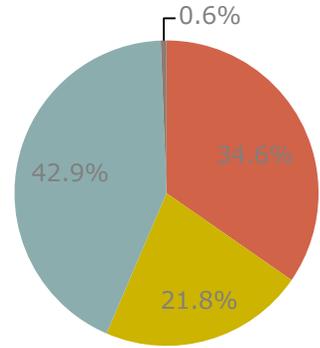
■ 共働き家庭と一般家庭の比較：「衣類収納で困っていること」

共働き家庭では一般家庭よりも該当する項目の比率が高い。なかでも「脱いだ服が散らかる」ことに困っている。そのことが、「室内に数着の衣類が出ている」という、ふだんの様子に近い回答へと反映されている。

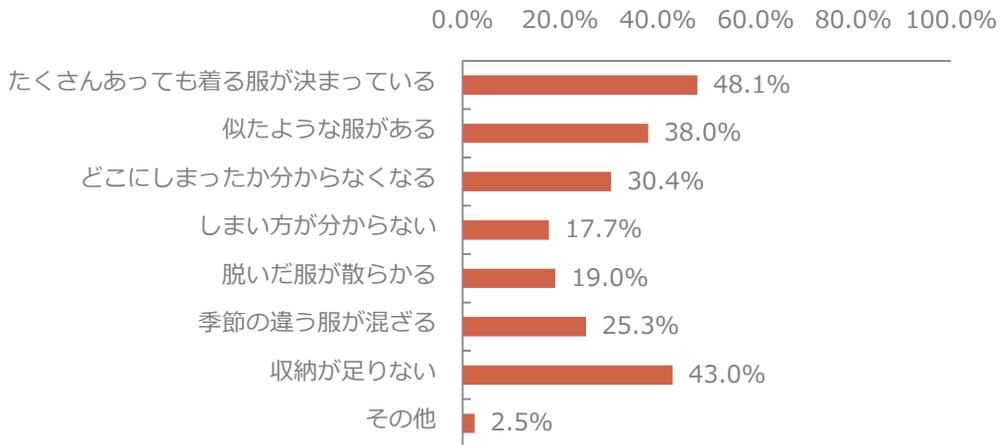
一般家庭



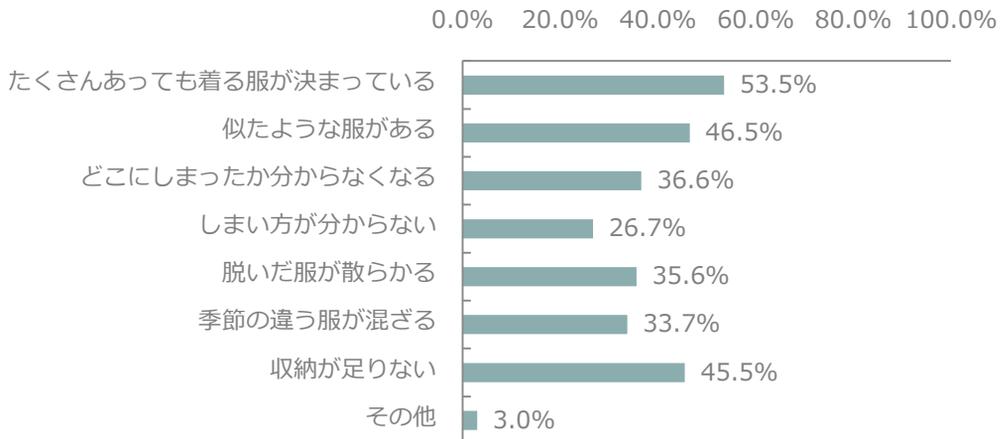
共働き家庭



一般家庭：衣類の収納で困っていること



共働き家庭：衣類の収納で困っていること



概要その2 第2回アンケート結果と分析

■ 共働き家庭と一般家庭の比較：「季節衣類の入れ替え」

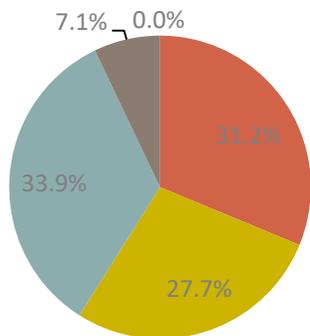
季節服の入れ替えの意向については、一般家庭と共働き家庭とでは大きな差異がみられる。「通年派」（入れ替えない）は、一般家庭では約32%と支持されている一方で、共働き家庭では約20%とやや低い傾向にある。

その一方で「入替派」（全部入れ替える）は共働き家庭で約39%、一般家庭で約26%と逆転している。手間のかかる負担の大きい作業であるにもかかわらず共働き家庭で支持されていることが明らかになった。

さらに衣類の収納場所への要望については、「家族で共用」が共働き家庭では約37%と一般家庭の約18%を大きく上回っている。「家族別」については一般家庭が約60%で、共働き家庭の約50%よりも高い傾向にある。

一般家庭：

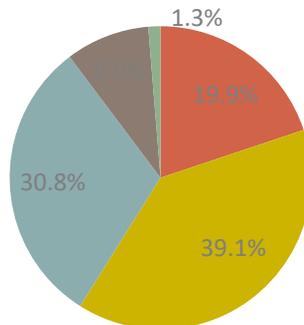
季節衣類の入れ替えはどのようにしたいですか



- 入替はしない
- 季節に合わせて全部入れ替える
- 季節に合わせて一部だけ入れ替える
- 気づいたときに、その都度入れ替える
- その他

共働き家庭：

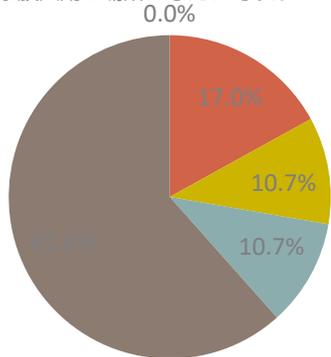
季節衣類の入れ替えはどのようにしたいですか



一般家庭：

衣類収納は家族別

それとも家族共用の場所にしたいですか

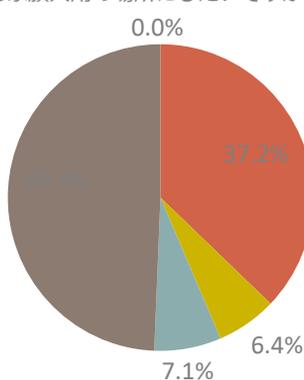


- 家族全員で共用
- 子供だけは共用
- 親だけは共用
- 家族それぞれが別
- その他

共働き家庭：

衣類収納は家族別

それとも家族共用の場所にしたいですか

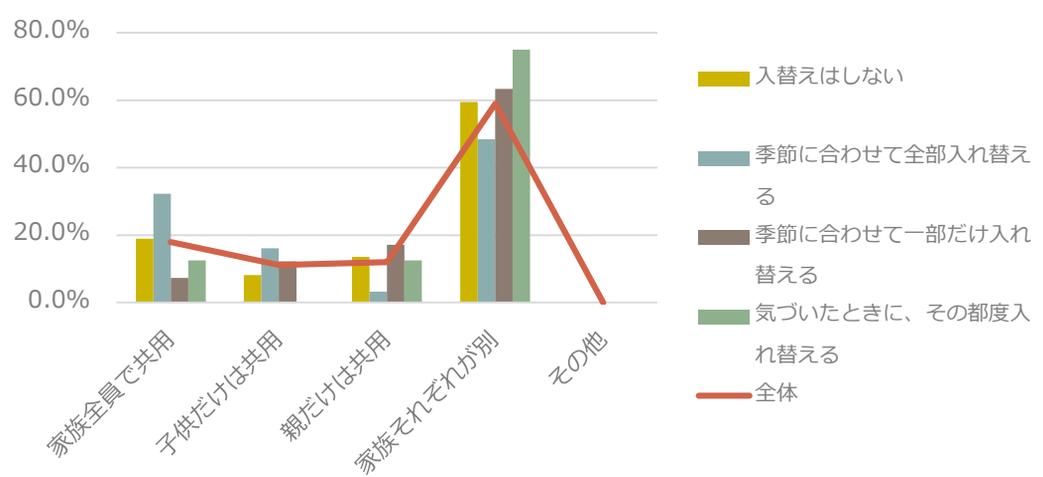


概要その2 第2回アンケート結果と分析

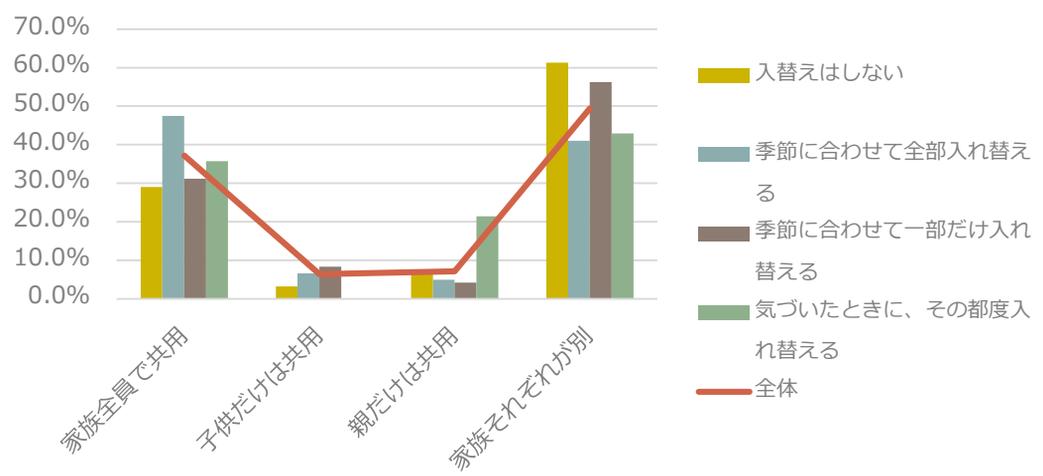
■衣類収納場所の共用・個別意向：季節服の入れ替え意向タイプ別

季節服の入れ替え意向別に、一般家庭と共働き家庭を比較するためにクロス集計を行った。共働き家庭の「入替派」は家族共用、「通年派」は家族別の収納場所を望む傾向にある。一般家庭の場合は、「通年派」と「一部派」が家族別、「入替派」は家族共用の場所を望む傾向がある。

一般家庭：衣類収納は家族別それとも家族共用の場所にしたい？



共働き家庭：衣類収納は家族別それとも家族共用の場所にしたい？

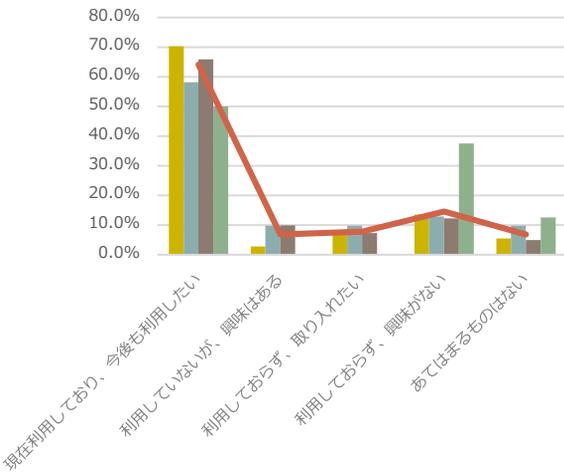


■ 収納用品（引き出しケース）の利用：家庭別・季節服の入れ替え意向タイプ別

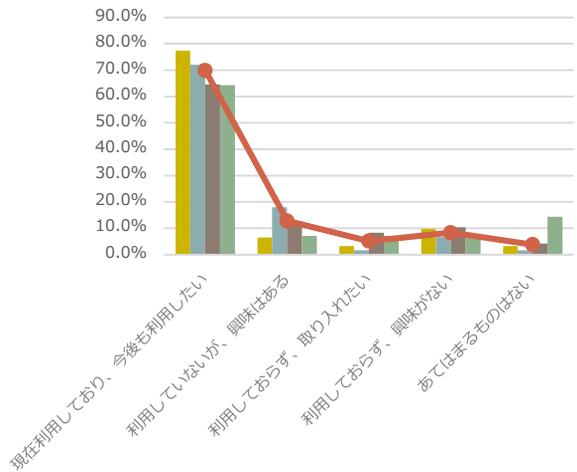
市販のプラスチック製引き出しケースを利用している家庭が多く、今後も使い続けたいという意向を持っている。その点で一般家庭と共働き家庭、季節服の入れ替えタイプ別共に大きな差異が見られない。

フタのあるプラスチック製衣装ケースについては、共働き家庭および「入替派」の利用がやや高い傾向にある。

一般家庭：引き出しケースの利用



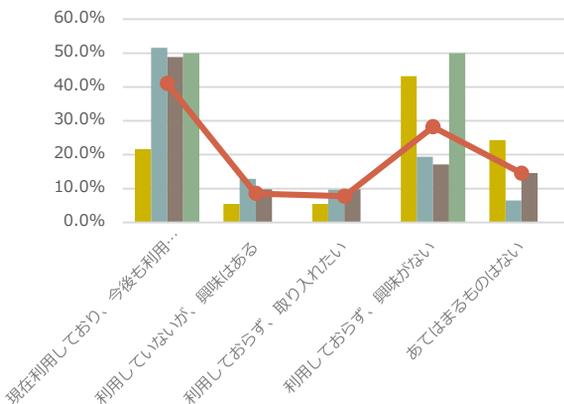
共働き家庭：引き出しケースの利用



- 入替えはしない
- 季節に合わせて全部入れ替える
- 季節に合わせて一部だけ入れ替える
- 気づいたときに、その都度入れ替える
- 全体

- 入替えはしない
- 季節に合わせて全部入れ替える
- 季節に合わせて一部だけ入れ替える
- 気づいたときに、その都度入れ替える
- 全体

一般家庭：フタつきの衣装ケース



共働き家庭：フタつき衣装ケース

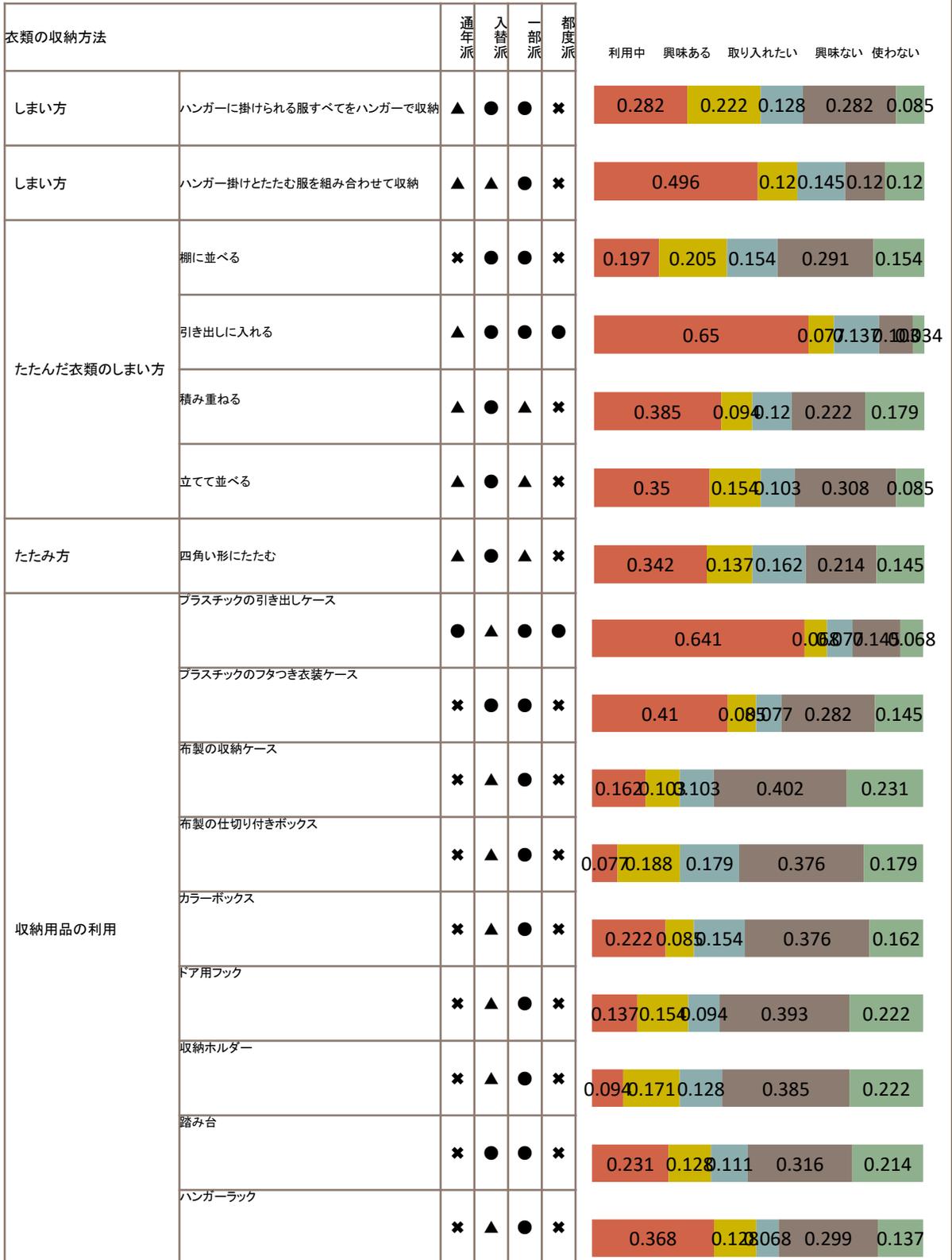


- 入替えはしない
- 季節に合わせて全部入れ替える
- 季節に合わせて一部だけ入れ替える
- 気づいたときに、その都度入れ替える
- 全体

- 入替えはしない
- 季節に合わせて全部入れ替える
- 季節に合わせて一部だけ入れ替える
- 気づいたときに、その都度入れ替える
- 全体

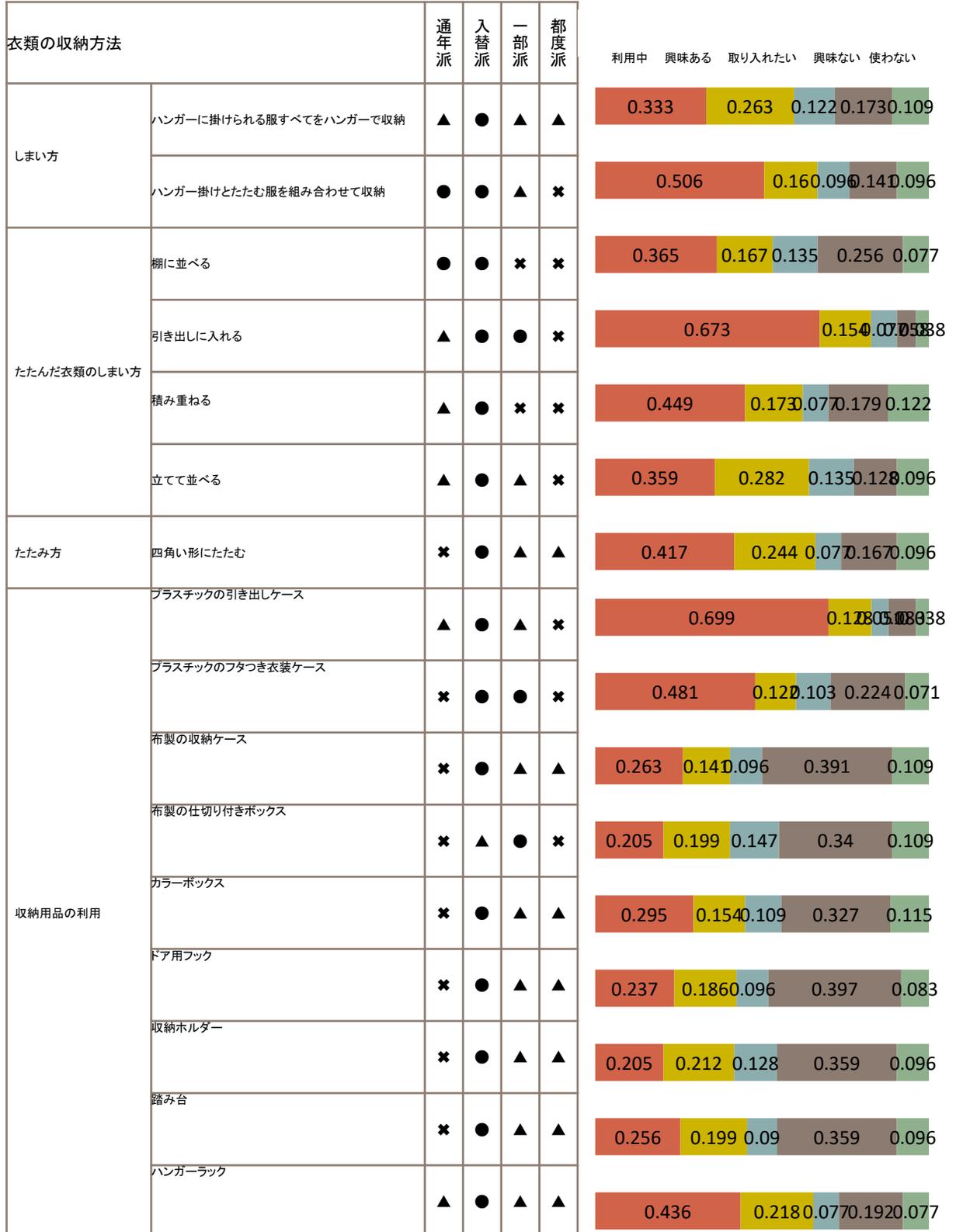
■衣類の収納方法：一般家庭・季節服の入れ替え意向タイプ別

季節服の入れ替え意向別に衣類収納の傾向を整理すると、プラスチックの引き出しケースの利用率が高い。その一方で、通年派と都度派の場合は棚や衣装ケース、収納ケース、フック、ラック、ホルダーなどの、収納用品を利用しないという傾向が強い。



■衣類の収納方法：共働き家庭別・季節服の入れ替え意向タイプ別

季節服の入れ替え意向別に衣類収納の傾向を整理すると、プラスチックの引き出しケースの利用率が高い。その一方で、通年派は収納用品の利用が低く、入替派は収納用品の利用としまいの工夫についての関心が高い。



## アンケート調査実施概要 第3回

## 調査概要と結果その3 第3回補足のアンケート

前2回のアンケートに引き続き、衣類収納について補足のアンケート調査として、子どもと暮らすファミリー家庭の女性を対象に実施した。

■調査方法：インターネット調査

■調査対象：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に居住する20歳から59歳までの548名

	n	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	
総数	548	117	166	159	106	
	(%)	100.0%	21.4%	30.3%	29.0%	19.3%

■調査対象期間：2019年11月18日から11月25日

■調査実施機関：株式会社エバーリソース 株式会社ジャストシステム

■回答者プロフィール

①職業：就業者の割合は約54%、専業主婦（主夫）が約46%となっている。

	n	公務員	経営者・役員	会社員(事務系)	会社員(技術系)	会社員(その他)	自営業	自由業	専業主婦(主夫)	パート・アルバイト	学生	その他	
総数	548	8	7	111	30	25	8	2	251	101	1	4	
	(%)	100.0%	1.5%	1.3%	20.3%	5.5%	4.6%	1.5%	0.4%	45.8%	18.4%	0.2%	0.7%

②婚姻状況：既婚者が100%となっている。

	n	未婚	既婚	
総数	548	0	548	
	(%)	100.0%	0.0%	100.0%

③子供の有無：子供有りの割合は100%となっている。

	n	子供有り	子供無し	
総数	548	548	0	
	(%)	100.0%	100.0%	0.0%

④片づけについて：「ちょっと苦手」「苦手」とする回答が半数を上回っている。

n	得意	まあまあ得意	ちょっと苦手	苦手
100.0%	12.4%	33.0%	30.1%	24.5%

⑤衣類の収納方法：部屋のクローゼットをはじめとして、衣装ケースと洋服ダンスおよび整理ダンスの利用が主な収納方法となっている。

クローゼット	整理ダンス	洋服ダンス	衣装ケース	カラーボックス	ベッド下収納	組み立てラック	押し入れ	納戸	保管サービス利用	収納しない	その他
72.6%	41.8%	47.3%	54.2%	22.1%	14.8%	16.6%	25.0%	7.8%	5.1%	2.6%	0.4%

⑥ **収納場所への不満**：クローゼットについては、収納量が足りないことへの不満が強い。比率は小さいものの「高い所に手が届かない」ことと、寝室のクローゼットの「奥行きが深い」ことへの不満がある。

	この収納がなく、欲しい	収納量が足りない	欲しい場所がない	奥行きが深すぎる	奥行きが浅すぎる	高い所に手が届かない	この収納はないが欲しいと思わない	その他	不満はない
玄関の収納(下駄箱)	5.3%	53.1%	10.4%	8.9%	10.4%	13.5%	0.7%	2.2%	21.5%
寝室の収納(クローゼット)	7.7%	46.0%	11.3%	8.9%	8.9%	15.9%	1.6%	4.0%	21.5%
子供部屋(クローゼット)	10.2%	38.0%	9.1%	5.8%	9.9%	10.4%	5.3%	7.1%	23.5%
キッチンの収納	2.6%	43.2%	13.0%	9.3%	9.7%	24.8%	1.6%	3.8%	20.4%
リビングダイニングの収納	13.3%	39.8%	10.0%	6.6%	8.4%	8.9%	5.7%	4.6%	22.1%
洗濯機まわりの収納	15.9%	30.5%	10.9%	7.5%	6.9%	9.5%	3.1%	3.8%	29.0%
洗面所の収納	6.2%	35.0%	9.1%	7.7%	8.9%	8.2%	2.4%	3.8%	36.1%
トイレの収納	13.0%	26.6%	8.4%	6.4%	5.7%	11.5%	3.6%	2.6%	38.7%
廊下の収納	15.9%	21.2%	8.2%	5.8%	7.8%	7.3%	12.4%	3.6%	34.5%
家の外の収納	25.0%	17.2%	8.2%	6.2%	7.3%	5.3%	12.8%	4.6%	29.9%
押し入れの収納	8.6%	34.1%	7.8%	11.3%	7.5%	10.0%	7.1%	4.2%	28.3%
階段下の収納	13.1%	14.4%	6.8%	8.0%	5.3%	5.8%	25.0%	8.6%	28.8%
屋根裏の収納	13.0%	8.8%	7.1%	6.8%	6.0%	7.3%	30.7%	10.0%	26.5%
床下収納	13.5%	13.1%	7.5%	7.5%	5.7%	5.7%	21.5%	7.8%	32.8%

⑦ **衣類アイテム別ランキング**：持っているアイテムの多い順に1位から5位までの回答を求めた。多いアイテムから順にパンツ、カットソー、スカート、ブラウス・シャツ、ソックス・タイツ、ジャケット、ワンピース、ニット、コートとなっている。

	スカート	パンツ	ジャケット	スーツ	ブラウス・シャツ	ワンピース	コート	カットソー	キャミソール	ソックス・タイツ	シューズ	ニット	スエット	ストール・スカーフ	スポーツウエア
1位	82	132	26	10	53	37	11	80	7	28	12	23	2	0	6
2位	38	115	45	15	57	23	32	48	10	37	12	34	5	3	2
3位	37	64	38	15	53	34	36	43	19	47	23	34	8	1	7
4位	27	37	28	22	37	29	48	44	33	37	26	24	9	4	6
5位	17	32	19	8	39	22	48	28	27	40	41	38	13	6	8
スコア	27	51	18	7	27	16	15	30	8	19	9	16	3	1	2

⑧ **季節服を入れ替えるメリットについて**：衣類を減らす良い機会とする回答が最も多く、衣類の手入れをしたり防虫剤を入れ替えたりする機会として捉えられている。減らす一方で、手持ちの衣類を知るきっかけとなり次の購買につながる機会にもなっている。

衣類を手入れする良い機会	衣類を減らす良い機会	防虫剤を入れ替える良い機会	季節感が感じられる	次を買う衣類を知る機会になる	特にない	その他
46.2%	61.9%	35.8%	27.0%	29.4%	10.2%	0.9%

⑨ **クローゼットに余裕があるならしまいたいもの**：衣類や身につけるアイテム以外のものの中から上位3点の回答を求めた。多い順に季節家電、寝具、スーツケースとなった。

	スーツケース	季節家電	思い出の品	趣味の品	布団や毛布などの寝具	節句やクリスマスなどイベント用品	本や雑誌	アルバム
1位	133	126	47	31	106	16	14	7
2位	27	108	47	39	105	54	23	17
3位	33	43	40	29	81	87	30	30
スコア	29	38	16	12	37	14	7	5

## クローゼットプロトタイプ提案の条件設定

自主研究からの条件設定

■ I型クローゼット

過去10年にわたり一般家庭と整理収納プロの家庭を訪問して、衣類収納の方法、クローゼットの使い方、クローゼットの造りについてのヒアリングと撮影を行ってきた。ひとくちにクローゼットと称しているが、その形状、広さ、寸法などによりタイプは様々である。

本研究にてプロトタイプ設計を行うにあたり、戸建てや集合住宅といった住宅形式と床面積に左右されることなく、基本形として参考にしやすいI型を設計条件とする。そのため、ウォークインクローゼット設計の際にも活用ができる。

また、奥行きは服のサイズに合わせて設定し、衣類収納として使いこなすことが難しいと思われる押し入れサイズの想定は行わない。

■ハンガー掛け収納とたたむ収納の組み合わせ

整理収納のプロ家庭の収納方法をもとに、衣類の種類としてハンガー掛けがふさわしいものと、たたんだほうが良いものとの勘案して、2種類の収納方法を採用する。

また、クローゼット内部の仕様としては、枕棚とハンガーパイプの設置を基本とし、床から天井までの高さを活かし、入手しやすい市販の収納用品を使うことを想定する。

■引き出しケースの利用

たたんだ衣類のしまい方として棚を使って衣類を積み重ねて収納する場合もあるが、衣類収納に成功している家庭の例では、市販の引き出しケースを使ってたたんだ衣類を管理している。日常の出し入れがしやすく、季節衣類の入れ替えがしやすいといった利点を活かすことを条件とする。

<p>クローゼット I凹型</p> <p>特徴：壁面に埋め込まれる形の造り付け収納でハンガーパイプと棚と扉で構成される。ダボでパイプと棚が可動式もある</p>	<p>クローゼット I凸型</p> <p>特徴：室内に箱型のクローゼットを設置。ハンガーパイプと棚と扉で構成される。ダボでパイプと棚が可動式もある</p>	<p>ケース1：引き出しケースを使ってたたんだ衣類を整理整頓</p>	
		<p>ケース8：ケース単位で季節の服を入れ替える</p>	

クローゼットのタイプ分類より

衣類収納とクローゼットの活用例より

## アンケート結果からの条件設定

### ■ 冬服の収納スペース確保

収納スペースが不足していると回答する理由は、衣類のなかでも冬服の収納にある。冬の衣類はかさ張ること、コートやジャケットのようにたたみにくい衣類があること、ハンガー掛けにできるスペースが限られているということが、その背景にある。そういった困りごとを前提に、冬服がしまえることを条件とする。

### ■ 衣替えの現状と意向

季節衣類の入れ替えについては、ファミリーか独身かといった世帯に関わらず、一部入れ替える「一部派」が多数となっているが、子どもと暮らすファミリー世帯の場合には「一部派」以外の衣替え習慣について、その意向を考慮する必要がある。一般ファミリー家庭での意向としては、入れ替えを全く行わない「通年派」の比率が上がり、共働きファミリー家庭では、すべてを入れ替える「入替派」の比率が高くなっている。そこで、「通年派」と「入替派」の両極の意向を反映したクローゼットを条件とする。しかし、季節衣類の入れ替えに負担を感じている回答が多いこと、その一方で衣替えをすることで衣類を減らす機会になると肯定的にとらえる回答もある。その結果をふまえると、衣類の所有状況把握しやすく、量の調整のしやすい仕組みがあることを付加的な条件として設定する。

### ■ 収納用品の利用

市販の収納用品のうち、引き出し式の収納用品を現状利用している回答が多く、今後取り入れたいという回答もあったので、たただ衣類の収納用品としての利用を条件とする。ラックやカラーボックスを利用している現状と意向をもつ傾向にあるが、部屋の中で使う収納用品についてはプロトタイプ設計では除外する。

### ■ 女性の所有衣類の傾向

衣類の所有傾向は個人差があると予想されるため、画一的に設定することは避ける。とは言え、子どもと暮らす共働き女性の場合、通勤と子どもの学校行事に関連する衣類が中心となると仮定して、クローゼットの中でハンガー掛け収納するものとたたんで収納するものの傾向を条件設定の参考とする。

ハンガー掛け：外出用（パンツ・スカート・ブラウス・シャツ・ワンピース）、ジャケット、コート

たたむ：カットソー、シワになりにくいスカート・ブラウス・シャツ・ニット・ワンピース・コート、ソックス、タイツ

### ■ 衣類以外でしまいたいアイテム

クローゼットのスペースに余裕がある場合には、寝具や季節家電、スーツケースをしまいたいといった回答を得ているので、衣類収納として設計されたクローゼットに衣類以外を収納する場合を参考例として紹介する。

### ■ 季節衣類を入れ替える方法

季節衣類の入れ替えについて整理収納アドバイザー\*に尋ねたところ、まったく行わない「通年派」は15名のうち1名のみ。ただし、それは自分の衣類の場合だけで、子どもの衣類は入れ替えているとのこと。11名は次のような形で入替えを行っている。

- ・ 季節に合わせて微調整する程度のわずかな入れ替え
  - ・ 季節に合わせて並び替えたり差替えたりする程度
- 「一部派」「都度派」に近い形となっている。

全部を入れ替える「入替派」は1名で、クローゼットと押し入れの2カ所を使って移し替えているが、収納ケースごとに季節衣類の分類ができていたので単純作業で済むとのこと。残り2名は、クローゼットと収納ケースから衣類を出して、他の部屋へと移動する入れ替え作業を伴っているため、やや労力がかかっている。

アンケート調査では、入替作業の実態について把握するうえで限界があったが、プロの実情から以下の点を条件設定とする。

- ・ 「入替派」であっても「一部派」「都度派」に近い形で作業の負担が少ない方法
- ・ 「通年派」は手持ちの衣類が把握しやすい方法

### ■ 服の入れ替えがラクになる仕組み

季節衣類の入れ替えについては、ラクに入れ替えができるスタイルであれば、むしろ衣類の手入れをしたり減らしたりするチャンスと捉えている。特に、成長期にある子どもの衣類は入れ替えるときにサイズアウト、傷み具合、好みなどの点検ができるので、余分なものを溜め込まないといったメリットの方が大きいと言う。

ラクにできる仕組みというのは、たとえば、その季節に着る頻度の高い衣類の入った引き出しをケース単位で入れ替えることを指している。その方法を「入替派」をはじめ「一部派」「都度派」の仕組みとして採用する。

### ■ 管理しやすく使いやすい収納法

入れ替えがラクなだけでなく、日常の衣類管理のしやすい仕組みのポイントとしては、以下の通り。

- ・ 季節とアイテムを決めて引き出し一段ごとに分類整理
- ・ 引き出しケースには、たたんだ衣類を縦に差し込んで収納
- ・ 同じ部屋の中で入替えが行える
- ・ ハンガー掛けにするのは通年着る服と季節外でもたためない服
- ・ ハンガーと引き出しケースといった収納用具を統一する
- ・ 収納スペースに応じて衣類の数を決める

これらの収納法を採用できることを条件とする。

### ■ 衣類の数

女性の整理収納プロ15名の衣類の数については平均250点で、数字の内訳には肌着やソックス、ストールなど身につけるもの全般となっている。そのうち「入替派」以外の場合は約200点。住宅事情、関心度、コーディネートスタイルなど個人差があるため、収納量の目安と言いきることはできないが、プロトタイプ設計の参考数とする。

\* 整理収納アドバイザーによる「整理収納アカデミア適量研究会2019」

## クローゼットプロトタイプの提案

### ■分譲住宅のクローゼット参考例

クローゼットのタイプ分類で紹介した通り、その形式として8種類を想定している。住宅の間取り、広さ、予算など設計と施工の条件に左右されるが、I型とウォークインL型の形式を一例として紹介したい。

今回の課題となっている日常と衣替えの収納習慣をクローゼットの設計に反映する際にポイントとなるのは、ハンガーパイプと枕棚の設置高にあると仮定したうえで、設計条件を満たすプロトタイプの検討を進める。

### ■クローゼットの寸法設定

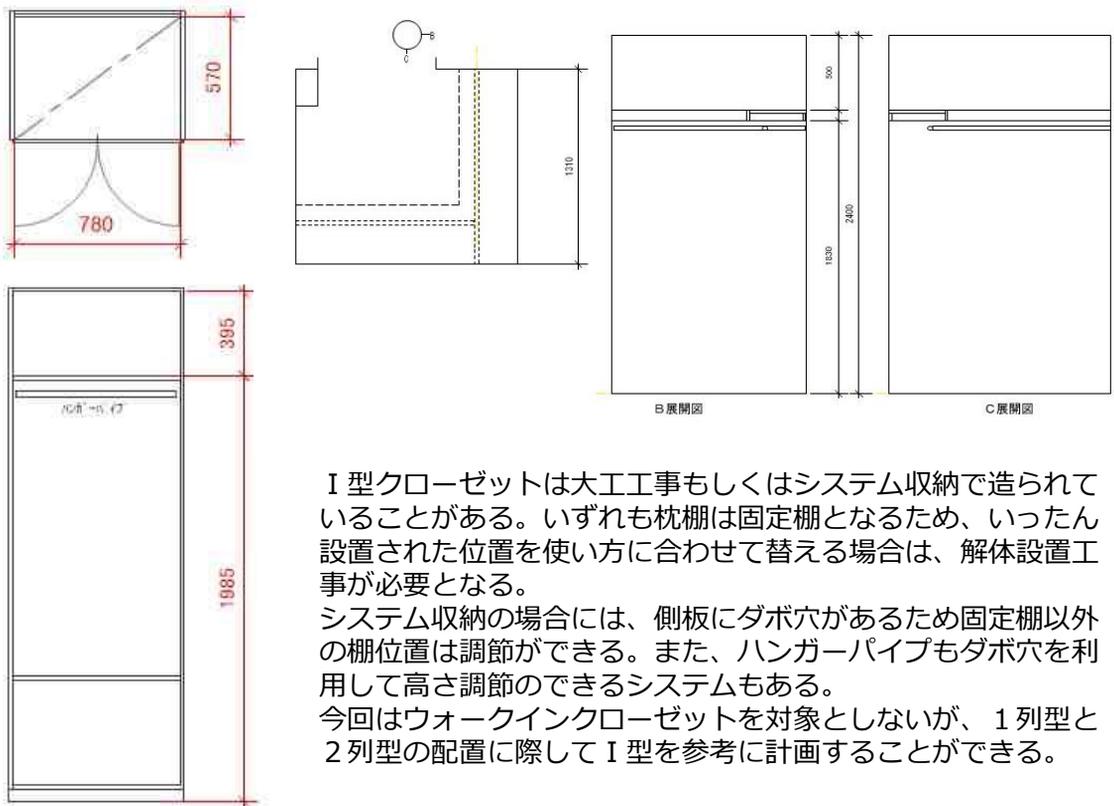
奥行き：平均身長をもとにハンガー掛けの衣類は、既制服のサイズを基準として内寸を570ミリ

幅：住宅のモジュールと市販の収納用品サイズをもとに内寸900ミリ

高さ：床から天井までの高さとし2400ミリ

### ■身長の設定

30から39歳の平均身長をもとに、女性は約159センチ、男性は約171センチとする。



I型クローゼットは大工工事もしくはシステム収納で造られていることがある。いずれも枕棚は固定棚となるため、いったん設置された位置を使い方に合わせて替える場合は、解体設置工事が必要となる。

システム収納の場合には、側板にダボ穴があるため固定棚以外の棚位置は調節ができる。また、ハンガーパイプもダボ穴を利用して高さ調節のできるシステムもある。

今回はウォークインクローゼットを対象としないが、1列型と2列型の配置に際してI型を参考に計画することができる。

### ■ 3ゾーンの使い分けを前提とする

衣類の収納方法をクローゼット内部の造りへと反映するうえで、床から天井までの高さを上部からストックゾーン、ハンガーゾーン、フリーゾーンの3区分で配分して設計を進める。その3ゾーンの配分については、季節衣類の入れ替えタイプに応じて、「通年派」と「入替派」の2タイプを提示する。

「入替派」のタイプでは入れ替え作業の負担を軽くすることを目指しているため、「一部派」と「都度派」にも適用できるものとする。

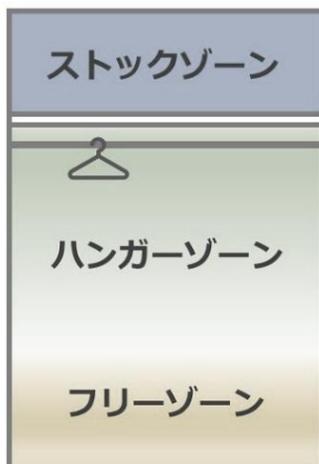
### ■ 衣類の種類と数

ハンガーに掛ける衣類を優先して、下記の通りその種類と数の設定を行った。

		アイテム		ハンガー掛け	たたむ
妻	アウター	コート	冬	5	
			合着・雨	3	
		ジャケット		6	
	トップス	ワンピース		5	
			フォーマル	2	
		ブラウス		13	7~
	ボトムス	パンツ		10	
			スカート	5	
		合計	49		
夫	アウター	コート	冬	4	
			合着・雨	1	
		ジャケット		4	
		スーツ		5	
		ブラックフォーマル		1	
	ボトムス	パンツ		5	
			ドレスシャツ	10	
			カジュアルシャツ	8	~
			T・ポロシャツ	12	~
	ネクタイ		15		
		合計	45		

### ■ ハンガーゾーンを共通に設定

ハンガー掛けにする衣類の種類と数は、各派の共通設定とする。その中には冬のコートをはじめとして四季に応じたジャケット、スーツ、パンツ、ブラックフォーマルも含まれる。



- ハンガーゾーン：  
ハンガー掛けにする衣類のためのゾーン。
- フリーゾーン：  
ハンガーに掛けたい類の裾から床までの空間を活かすためのゾーン。  
市販の引き出しケースを配置する。
- ストックゾーン：  
「入替派」は季節外の衣類をしまうためのゾーン。  
「通年派」でもスポーツウエアなどをしまうために使う。  
また、衣類以外の寝具やカバンなどもしまえる。

## クローゼットプロトタイプ設計の前提

## ■ 3ゾーンのヴォリューム配分

- ①ストックゾーン（枕棚の高さ）：「入替派」には棚から天井までの高さを十分に残し、季節外衣類がしまえるスペースとする。
- ②ハンガーゾーン（ハンガーパイプの高さ）：「通年派」にはハンガーパイプの位置をなるべく高く設定してフリーゾーンに余裕を残す。但し、使用者の身長に応じて高さを最適にすることになるが、プロトタイプでは平均身長を採用する。
- ③フリーゾーン（服の裾から床までの高さ）：衣替えのタイプに応じたストックゾーン、ハンガーゾーンと調整したうえで、ただ衣類のための空間を残す。その際には衣類の丈の長さを考慮する。

## ■ クローゼット幅の設定

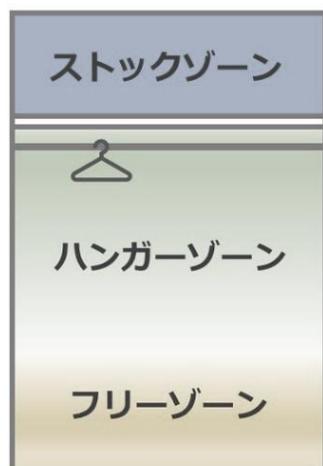
- ①ハンガー掛けにしたい衣類の数：個人差があるためコートやジャケット、スカートなどハンガー掛けにする衣類を中心に数を把握する。なかでも「通年派」は、かさばる冬物衣類を年間を通して吊るすことになるため、衣類の厚みを考慮する。
- ②利用する収納用品の種類：市販されている収納用品の定番商品の配列が幅の設定に影響する。本研究では数社の中から1社の商品を選んで設定する。

## ■ クローゼット扉の設定

本研究では市販の収納用品を利用することを前提にしているため、クローゼット空間の内法サイズで設計を進め、扉の形式についての設定を行わない。

## ■ 収納量の目安

- ①ハンガー掛け衣類：衣類の種類と数の設定をもとに丈の長さ順に配列し、フリーゾーンを残す。実際には種類別、季節別、色別といった配列になることもあるが、収納量の目安を算出するために形式的に行う。
- ②市販の収納用品のうち深さの異なる2種類の物を採用し、引き出し1段につき衣類がしまえる枚数、下着やソックスなど小さな衣類がしまえる枚数を想定して、収納量の目安として算出する。



- ハンガーゾーン：  
ハンガー掛けにする衣類のためのゾーン。
- フリーゾーン：  
ハンガーに掛けたい類の裾から床までの空間を活かすためのゾーン。  
市販の引き出しケースを配置する。
- ストックゾーン：  
「入替派」は季節外の衣類をしまうためのゾーン。  
「通年派」でもスポーツウエアなどをしまうために使う。  
また、衣類以外の寝具やカバンなどもしまえる。

## クローゼットプロトタイプ-1「通年派」

### ■「通年派」はフリーゾーンを広くする

季節衣類の入れ替えをしない「通年派」は、3ゾーンのうちフリーゾーンを最大限に活用して、たたんだ服を収納するスペースを確保する。そのために、ハンガーパイプの設置高を男女の平均身長×1.2とし枕棚の高さを、女性は2,000ミリ、男性は2,150ミリとした。

その結果として、フリーゾーンが広くとることができる。また、衣類の丈の長短で順番に配列することによえい、フリーゾーンに引き出しを無駄なく設置している。

引き出しケースの最上段と衣類の裾との空きスペースには、布製の収納ケースを置いて、着替えの衣類を置いたり、カバンを置いたりするなどのカスタマイズが可能となる。

### ■ゾーン別の収納数（換算数値）

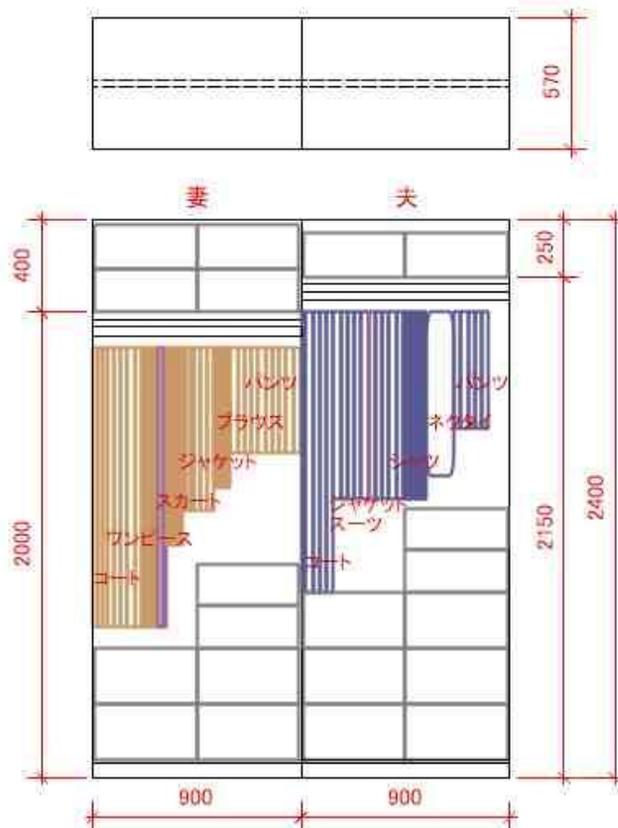
女性：ハンガーゾーンに49点 フリーゾーンに100点+70点 ストックゾーンに120点  
合計 衣類149点+下着等70点+予備120点

男性：ハンガーゾーンに45点 フリーゾーンに150点+70点 ストックゾーンに70点  
合計 衣類199点+下着等70点+予備70点

男女ともに同じサイズのクローゼットを使った場合、男性のハンガーゾーンには余裕が少し残る。

### ■ストックゾーンは予備収納スペース

枕棚の位置を高い場所に設定したためストックゾーンが狭くなる。衣類の入れ替えがないので、寝具やバッグ、スポーツ用品などをしまう場所として使うこともできる。



フリーゾーン	引き出し 440×55 0×240	引き出し 440×550 ×180
	通年着 35×2	下着・ソックス 35×2
	冬物 15×2	
小計	100	70
ストックゾーン		予備 35×4
小計		120
フリーゾーン	引き出し 440×55 0×240	引き出し 440×550 ×180
	通年着 35×3	下着・ソックス 35×2
	冬物 15×3	
小計	150	70
ストックゾーン		予備 35×2
小計		70

■「入替派」はストックゾーンを広くする

季節衣類の入れ替えをする「入替派」は、3ゾーンのうちストックゾーンを最大限に活用して、季節外衣類を収納するためのスペースを確保する。そのため、フリーゾーンに配置できる引き出しケースの高さと並べ方を、ストックゾーンにも当てはまる高さで設定を行った。その結果として、枕棚の設置高が男女ともに床から1740ミリとなり、フリーゾーンとストックゾーンで季節服を入れ替えることができる。

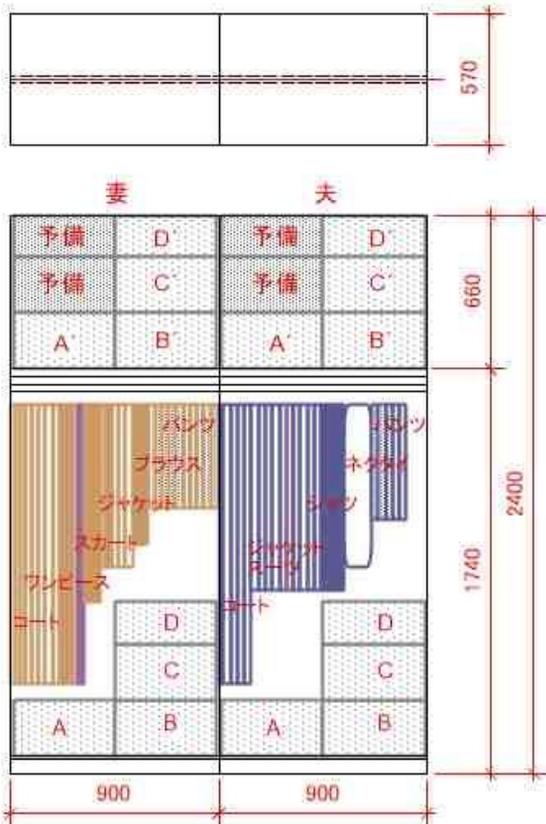
■季節衣類の入れ替えは単純な軽作業

日ごと使っているクローゼットの中で、ただ衣類を入れ替えるだけで季節衣類の管理ができるので、単純で負担の少ない作業となる。また、同じサイズの収納ケースを利用することで、衣類の種類と数を把握しやすくなる。

引き出しケースは目線より下の位置で利用するのが通常ではあるものの、ケースの枠からケースボックスを取り出して上下を移し替えるために、ストックゾーンにも同じサイズのケースを置くことを想定している。そのためには踏み台が必須となる。

■ゾーン別の収納数（換算数値）

女性：ハンガーゾーンに49点 フリーゾーンに105点+35点 ストックゾーンに60点  
 +70点 合計 衣類214点+下着等105点  
 男性：ハンガーゾーンに45点 フリーゾーンに105点+35点 ストックゾーンに60点  
 +70点 合計 衣類210点+下着等105点



フリーゾーン	引き出し 440×550×240	引き出し 440×550×180
	通年着 35×3	下着・ソックス 35
小計	105	35
ストックゾーン	冬着 15×4	下着・ソックス 35×2
小計	60	70

フリーゾーン	引き出し 440×550×240	引き出し 440×550×180
	通年着 35×3	下着 ソックス 35
小計	105	35
ストックゾーン	冬着 15×4	下着・ソックス 35×2
小計	60	70

■フリーゾーンとストックゾーンのバランス

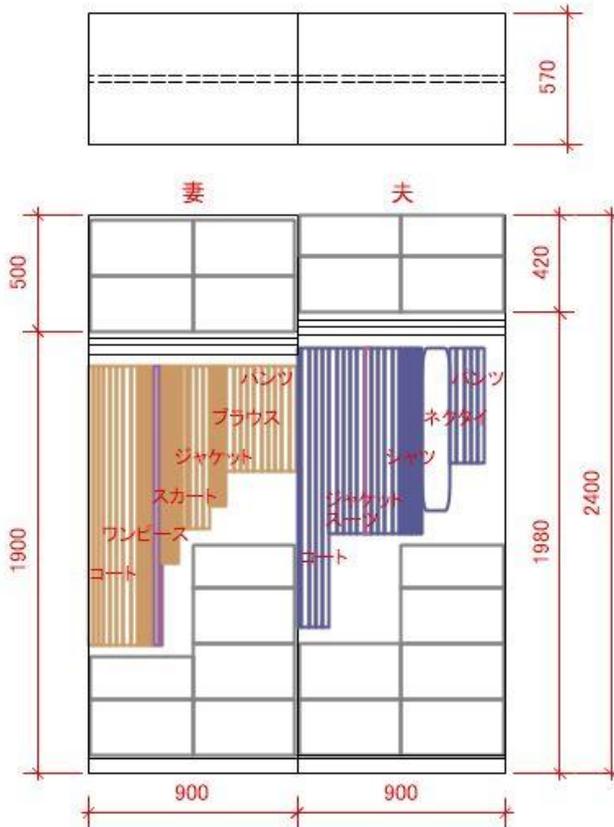
季節に応じて一部を入れ替える「一部派」と、気づいたときに行う「都度派」の場合は、「通年派」と「入替派」との中間のスタイルとして位置付ける。ハンガーゾーンは各派共通に固定条件としているので、フリーゾーンとストックゾーンとのバランスを優先して枕棚の位置を決める。

■季節の衣類が混在しないしまい方

入れ替える衣類が部分的であることと、作業をするタイミングがまちまちになることが想定される。そのため、今の季節に合わせて選びやすいしまい方にすることがポイントになる。また、寒暖の調節をするために着替える衣類が乱れやすいことも予想されるので、日常の出し入れのしやすさも考慮して、ハンガー掛けの衣類の並び順と引き出しケース一段ごとに分類をきちんと決めておくことが必要となる。

■ゾーン別の収納数（換算数値）

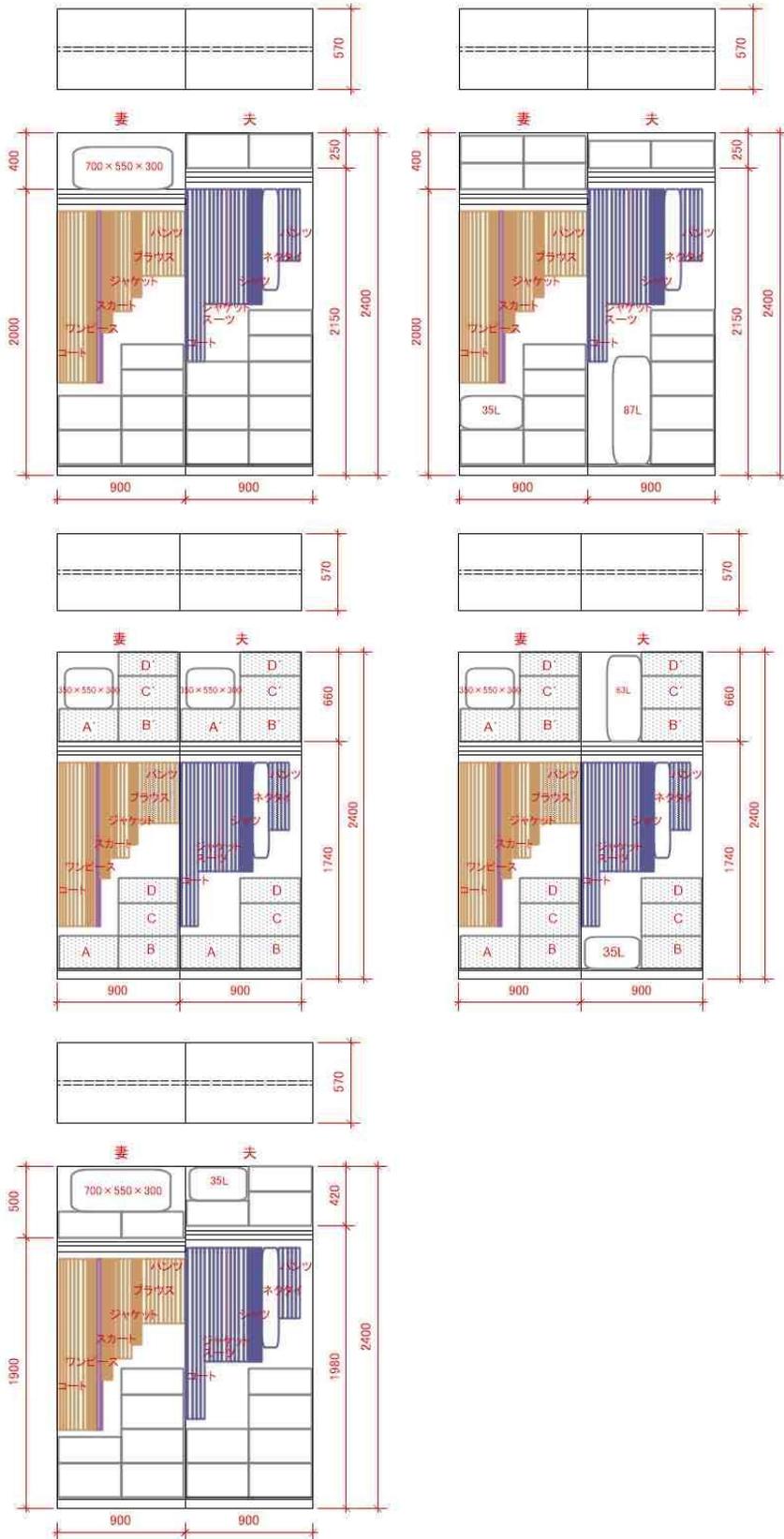
女性：ハンガーゾーンに49点 フリーゾーンに100+70点 ストックゾーンに100点  
合計 衣類249点+下着等70点  
男性：ハンガーゾーンに45点 フリーゾーンに135+35点 ストックゾーンに50点  
+70点 合計 衣類230点+下着等105点



フリーゾーン	引き出し 440×550×240	引き出し 440×550×180
	通年着 35×2 冬着 15×2	下着・リックス 35×2
小計	100	70
ストックゾーン	通年着 35×2 冬着 15×2	
小計	100	
フリーゾーン	引き出し 440×550×240	引き出し 440×550×180
	通年着 35×3 冬着 15×2	下着・リックス 35
小計	135	35
ストックゾーン	通年着 35 冬着 15	下着・リックス 35×2
小計	50	70

■衣類以外の寝具と旅行カバンの収納

衣類の分量を調節することによって、季節の寝具や旅行カバンをしまうためのスペースに置き換えることができる。



■通年派

季節衣類の入れ替えをしないので、ストックゾーンに寝具をしまうことも想定される。妻用のゾーンにはダブルサイズの布団ケースがしまえる。

フリーゾーンの衣類を減らせるなら、旅行カバン35Lと87Lサイズを引き出しケースに置き換える。

■入替派

ストックゾーンの予備スペースにはシングルサイズの布団ケースをしまうことができる。

夫側のストックゾーンの衣類を半分に減らすことができれば旅行カバン63Lサイズがしまえる。さらにフリーゾーンの引き出しを旅行カバンに置き換えると35Lのサイズが入る。

■一部派と都度派

ストックゾーンの妻側には引き出しを半分減らすことでダブルサイズの布団ケースをしまえる。夫側の引き出し1個を減らして旅行カバンの35Lサイズが入る。

## 今後の課題

## 今後の課題

## ■今後の課題

衣類の種類と数量、日常と衣替えの収納タイプ、クローゼットの寸法と内部の仕様といったソフトとハード両面から導き出したクローゼットのかたちをプロトタイプとして考案した。

これまでは、クローゼットを計画する際の目安として一人あたりの幅1,000ミリが最低限で1,500ミリが望ましいとする書籍もあるが、その理由が明確に示されていない。また、分譲住宅や分譲マンションにおいて、根拠となる数値をもとに設計されていないのが現状である。

そもそも衣類の収納法は誰もが同じように行なっているのではなく、各家庭で異なっている。しかし、その収納法について新たな視点として収納習慣の「衣替え」に着目することによってタイプ分けを行い、そのタイプの特徴をクローゼットのかたちへと反映できるのではないかという仮説をもとに調査を進めた。その結果をもとに、本研究においては衣類の種類と数の整理法を想定し、さらに収納習慣としての衣替えを反映した、衣類収納空間のサイズと収納法をクローゼットプロトタイプとして3案にまとめた。

各プロトタイプを1ユニットとして1.5ユニット、2ユニットとして拡張することが可能となる。さらにはクライアントの現状と要望にそってどのような提案、設計を行っていくのが今後の課題となる。その際に検討すべき事項として次のことがあげられる。

## クライアントのソフト面

- ① 日常の衣類収納の方法
- ② 季節衣類の入れ替え方法
- ③ 衣類の種類と数量
- ④ クローゼットに収納する衣類以外のアイテム
- ⑤ 収納用品の選定
- ⑥ 衣類への嗜好

## クローゼットづくりのハード面

- ① クローゼットの幅、奥行き、高さ寸法
- ② 枕棚・ハンガーパイプの設置位置
- ③ ウォークインクローゼット内のレイアウト
- ④ 扉の有無と仕様
- ⑤ クローゼットの設置位置
- ⑥ クローゼット工事（大工工事、システム収納、造作家具）

## ■今後の活用例

- ① 衣類の収納習慣および整理法がクローゼット空間にどのように反映されているのかを分かりやすく解説したハンドブックを制作し活用する
- ② ハンドブックを使うことにより、住み手が自身の収納習慣および整理のありかたを認識し、コーディネーターに要望を明確に伝えることができる。コーディネーターはプロトタイプをもとに住み手に寄り添ったカスタマイズのアドバイス、計画・設計提案を行う
- ③ 衣類収納相談会とセミナー開催時に参考テキストとして活用する
- ④ 住宅・インテリア設計業及び関連事業者とともにコーディネーターとして収納計画・設計を行う際に活用する
- ⑤ 収納家具メーカーへの商品企画時にその根拠として活用する
- ⑥ 分譲・賃貸住宅の企画開発において収納計画・設計に活用する

## 今後の課題

## ■ 今後に期待される効果

- ① 独自で調査研究を行うのが困難な中小事業者、個人事業者（コーディネーター）が、収納計画・設計を行う際に、住み手に寄り添った提案根拠として活用できる
- ② 住み手と作り手・コーディネーターとの間で衣類収納の課題を共有できる
- ③ 衣類の収納問題に向き合う契機となり、住み手と作り手、コーディネーターそれぞれの立場から満足度の高い計画・設計が行える

衣類の収納計画を行う際には、住まい全体の計画を俯瞰して収納スタイルの目標を考えていくことが必要である。どこに何をどれくらいどのように収納したいのか、使いやすくするために何をしたらいいのか、そしてインテリアの要素としてどう位置付けていくのかというアプローチが欠かせない。

「計算では出てこない心理というものを寸法にあらわすのが設計という仕事だ」と吉村順三氏が述べた名言がある。共働き家庭が増えてファミリースタイルが多様化している現在は、住まいに対する要望も様々である。住み手の意向を引き出して、収納のあり方をソフトとハードの両面から共に考え、暮らしのかたちを収納空間へと映し出してくプロとして努めていきたい。

須原浩子

# 収納習慣および整理法から導き出す クローゼットプロトタイプの考察・提案

須原浩子

2020年3月

---

## 須原浩子

インテリアコーディネーター  
一級建築士  
整理収納アドバイザー認定講師  
収納環境プランナー認定講師  
株式会社アビタ・クエスト代表

公益社団法人インテリア産業協会  
「インテリア関連調査・研究活動支援事業」助成金  
をもとに調査研究を実施してまとめた報告書